

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更								
フリガナ設置者	ガッコウホジシヨウトヨダガクエン 学校法人 トヨタ学園								
フリガナ大学の名称	トヨコウギョウダク 豊田工業大学 (Toyota Technological Institute)								
大学本部の位置	愛知県名古屋市中区久方2丁目12番地1								
大学の目的	<p>本学は、教育基本法及び学校教育法の精神に基づき、社会との緊密な交流連繋のもとに、豊かな人間性と創造的な知性を備えた実践的技術者を育成し、合わせて深く専門の学術を研究し、もって学術文化及び社会の発展に寄与することを目的とする。</p>							『学則』第1条	
新設学部等の目的	<p>本学は開学以来の少人数制の優位点を堅持し、年々増加する受験生数と高まる学力水準、高校等からの要請に応えるべく、本学長期ビジョンで掲げた学部入学定員100人体制を実施に移し、令和3年度から（90人→100人）の入学定員増を図る。また、継続的に入学希望者のある3年次編入学生について入学定員（6人）を新設し、全体として（360人→412人）の収容定員増を図る。その結果として、本学の教育・研究両面の独自性や存在感を向上させ、選択集中した特定分野で、世界規模での成果の創成と人材育成の充実をめざす。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	工学部 (School of Engineering) 先端工学基礎学科 (Department of Advanced Science and Technology)	4年	100人 (90)	3年次 6人 (-)	412人 (360)	学士(工学) (Bachelor of Engineering)	令和3年4月 第1年次 令和3年4月 第3年次	愛知県名古屋市中区久方2丁目12番地1	
	計		100人 (90)	3年次 6人 (-)	412人 (360)				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		該当なし							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	—	講義	演習	実験・実習	計	— 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	工学部 先端工学基礎学科	30人 (26)	21人 (18)	1人 (1)	6人 (6)	58人 (51)	0人 (0)	53人 (53)
		計	30人 (26)	21人 (18)	1人 (1)	6人 (6)	58人 (51)	0人 (0)	—人 (-)
	既設分	スマートビークル研究センター	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)
		スマートエネルギー技術研究センター	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)
計		2人 (2)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	2人 (2)	0人 (0)	—人 (-)	
合計		32人 (28)	21人 (18)	1人 (1)	6人 (6)	60人 (53)	0人 (0)	—人 (-)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		41 (41)	28 (28)	69 (69)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)	4 (4)	7 (7)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計		44 (44)	32 (32)	76 (76)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	54,192 m ²	0 m ²	0 m ²	54,192 m ²					
	運 動 場 用 地	11,334 m ²	0 m ²	0 m ²	11,334 m ²					
	小 計	65,526 m ²	0 m ²	0 m ²	65,526 m ²					
	そ の 他	15,048 m ²	0 m ²	0 m ²	15,048 m ²					
合 計	80,574 m ²	0 m ²	0 m ²	80,574 m ²						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		38,874m ² (38,874 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	38,874 m ² (38,874 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	13 室	2 室	11 室	0 室 (補助職員0人)	0 室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		大学全体		73 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	大学全体	108,383 [41,590] (104,483 [40,990])	4,456 [4,020] (2,946 [2,520])	3,442 [3,424] (1,942 [1,924])	849 (846)	9500 (9000)	1 (1)			
	計	108,383 [41,590] (104,483 [40,990])	4,456 [4,020] (2,946 [2,520])	3,442 [3,424] (1,942 [1,924])	849 (846)	9500 (9000)	1 (1)			
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		821 m ²		107 席	113,638 冊					
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体			
		2,215 m ²		テニスコート 2面 -						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 *図書購入費は、電子ジャーナル購入費を含む。 *授業料は在学中に改定される場合あり(スライド制)。保険料は預り金のため左記に含めていない。
		教員1人当り研究費等		2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		70,000千円	70,000千円	70,000千円	70,000千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	69,000 千円	69,000 千円	69,000 千円	69,000 千円	69,000 千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	380,000 千円	380,000 千円	380,000 千円	380,000 千円	380,000 千円	— 千円	— 千円		
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	982 千円	700 千円	700 千円	700 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			トヨタ自動車株式会社からの寄付金, 私立大学経常費補助金, 外部資金(公的な受託研究, 民間受託・共同研究等), 資金運用収入等							

既設大学等の状況	大学の名称	豊田工業大学							所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
		年	人	年次人	人		倍		
	工学部 先端工学基礎学科	4	90	—	360	学士（工学）	1.02	平成13年度	愛知県名古屋市天白区久方2丁目12番地1
	工学研究科 修士課程 先端工学専攻	2	45	—	90	修士（工学）	1.17	昭和59年度	
	工学研究科 博士後期課程 情報援用工学専攻	3	6	—	18	博士（工学）	0.16	平成7年度	
	極限材料専攻	3	6	—	18		0.33	平成7年度	
附属施設の概要	該当なし								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の場合、収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第2号（その2の1）
（用紙 日本工業規格A4縦型）

教育課程等の概要

（工学部先端工学基礎学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目	教養基礎セミナー1	1前	1				○		1	1					兼1
	教養基礎セミナー2	1後	0.5				○		1						
	教養基礎セミナー3	4前	0.5				○		2						
	論理学（教養コア1）	1前		2		○				1					
	哲学入門（教養コア2）	1後		2		○			1						
	経済学入門（教養コア3）	2前		2		○									
	科学技術と社会（教養コア4）	3・4前	2			○									
	世界と日本	2前		2		○									
	社会福祉入門	2前		2		○									
	世界の歴史	2後		2		○				1					
	現代社会論	2後		2		○									
	日常生活の法律問題	2後		2		○									
	心理学	3前		2		○									
	健康・体力科学論	3後		2		○					1				
小計（14科目）	—		4	20	0		—		3	1	1	0	0	兼9	—
外国語科目	英語	基礎英語1	1前		1			○		1	1				兼4 兼2 兼1 兼1 兼2
		基礎英語2	1後		1			○		1	1				
		基礎英語3	2前		1			○		1	1				
		基礎英語4	2後		1			○		1	1				
		応用英語1（TOEIC）	3前		1			○							
		応用英語2（TOEIC）	3後		1			○			1				
		応用英語3（TOEFL）	3・4前		1			○							
		応用英語4（TOEFL）	3・4後		1			○							
		英語テクニカルライティング1	3後		1			○							
		英語テクニカルライティング2	4前		1			○			1				
		英語コミュニケーション1	1前		1			○							
		英語コミュニケーション2	1後		1			○							
		英語コミュニケーション3	2前		1			○							
		英語コミュニケーション4	2後		1			○							
	英語特別演習1	2・3・4前		1			○								
	英語特別演習2	1・2・3・4後		1			○								
	英語読解演習	3・4後		1			○		1						
	ドイツ語 中国語	学部海外英語演習	1・2・3・4通			2		○		1	1				
		ドイツ語1	2・3・4前		1			○							
		ドイツ語2	2・3・4後		1			○							
		中国語1	2・3・4前・後		1			○							
	中国語2	2・3・4後		1			○								
小計（22科目）	—		0	21	2		—		2	2	0	0	0	兼9	—
健康・体力科目	基礎スポーツ1	1前		0.5				○			1			兼2 共同 兼2 共同 兼2 共同 兼2 共同	
	基礎スポーツ2	1後		0.5				○			1				
	基礎スポーツ3	2前		0.5				○			1				
	基礎スポーツ4	2後		0.5				○			1				
	生涯スポーツ1	3前		0.5				○			1				
	生涯スポーツ2	3後		0.5				○			1				
	生涯スポーツ3	4前		0.5				○			1				
	生涯スポーツ4	4後		0.5				○			1				
小計（8科目）	—		0	4	0		—		0	0	1	0	0	兼2	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
工学基礎科目	微分積分学1および演習	1前		3		○	※		1	1					※演習あり
	微分積分学2および演習	1後		3		○	※		1	1					※演習あり
	解析1a	2前		1		○				1					
	解析1b	2前		1		○				1					
	解析2a	2後		1		○			1						
	解析2b	2後		1		○			1						
	フーリエ解析	3前		2		○			1						
	線形代数1および演習	1前		3		○	※			1		1			※演習あり
	線形代数2	1後		2		○			1						
	確率・統計	1後		2		○			1						
	ベクトル解析	1・2後		2		○			1						
	常微分方程式	2前		2		○				1					
	偏微分方程式	3後		2		○				1					
	力学1および演習	1前		3		○	※		1						※演習あり
	力学2a	1後		1		○			1						
	力学2b	1後		1		○			1						
	力学3	3前		2		○			1						
	熱力学	2後		2		○				1					
	電磁気学1	1後		2		○			1						
	電磁気学2	2前		1		○				1					
	物理学実験1	1前・後	0.5					○	1						
	物理学実験2	1前・後	0.5					○	1						
	化学1	1前		2		○			1						
	化学2a	1後		1		○			1						
	化学2b	1後		1		○			1						
	化学実験1	1前	0.5					○	1	1					
	化学実験2	1後	0.5					○	1	1					
	工学スタートアップセミナー	1前	1			○		○	2						
	情報リテラシー	1前	1.5			○		○	3	5					兼2
小計(29科目)	—	—	4.5	41	0	—	—	10	9	0	1	0	兼2	—	
機械システム分野	応用熱力学	2後		2		○				1					
	伝熱工学	3前		2		○				1					
	熱エネルギー工学	4前		2		○			1						
	流体基礎	2後		2		○			1						
	流体解析	3前		2		○			1						
	流体応用	4前		2		○			1						
	材料力学基礎	2前		2		○			1						
	材料力学	2後		2		○			1						
	弾塑性力学	3後		2		○				1					
	CAD基礎	1前		0.5			○			1					
	図学と製図	2前		2			○		1	1					
	設計情報工学	3前		2		○				1					
	設計演習	3後		2			○		1						
	金属材料工学	3前		2		○			1						
	機械加工学	3後		2		○			1						兼1
	加工プロセス工学	3後		2		○			1						オムニバス
	数値解析法	3前		2		○			1						
	機械振動学	3前		2		○			1						
	機構学	3後		2		○			1						
トライボロジー	4前		2		○			1							
C言語プログラミング	3後		2		○				1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
電子情報分野 専門科目	数値計算法	3前		2		○				1					兼1 ※実習あり ※実習あり	
	システム工学	3前		2		○				1						
	コンピュータプログラミング基礎および実習1	1前		1.5		○		※	1	2						
	コンピュータプログラミング基礎および実習2	1後		1.5		○		※	1	2						
	プログラミング技法	2前		2		○				1						
	アルゴリズムとデータ構造	2後		2		○				1						
	離散数学	3前		2		○					1					
	ソフトウェア実験	3前		1				○			1					
	ソフトウェア工学	3後		2		○				1						
	人工知能	4前		2		○				1						
	デジタル論理回路	3前		2		○						1				
	コンピュータアーキテクチャ	3後		2		○					1					
	コンピュータグラフィックス	3後		2		○				1						
	信号処理	2後		2		○					1					
	通信工学	3前		2		○										
	情報理論	3後		2		○					1					
	制御工学基礎	2後		2		○					1					
	現代制御理論	3前		2		○					1					
	メカトロニクス	3前		2		○				1						
	電気工学1	3後		2		○				1						
	電気工学2	4前		2		○				1						
	電気回路工学1	2前		2		○				1						
	電気回路工学2	3前		2		○				1						
	電子回路工学	2後		2		○				1						
	半導体デバイス工学1	3後		2		○						1				
	半導体デバイス工学2	4前		2		○				1						
	物質工学分野	光学	2前		1		○				1					
		物質の電磁気学	3前		2		○				1					
量子力学1		2前		2		○				1						
量子力学2		2後		2		○				1						
量子材料工学基礎		3前		2		○				1						
量子力学3		3後		2		○				1						
統計力学		3前		2		○				1						
物性工学1		3前		2		○				1						
物性工学2		3後		2		○					1					
磁気工学		4前		2		○				1						
分析科学		2後		2		○					1					
高分子科学		3後		2		○					1					
生物工学		3後		2		○							1			
表面・界面科学		4前		2		○					1					
無機化学		3前		2		○					1					
有機化学1		2後		2		○					1					
有機化学2		3前		2		○					1					
材料科学入門		2前		1		○										
無機材料科学		3後		2		○						1				
物質工学実験		3後		1				○		3	2					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通	創造性開発実習1	2前		1				○	3						兼4 合同 兼1 合同・集中 兼1 兼2 オムニバス、修士合同 兼1 オムニバス、修士合同
	創造性開発実習2	2後		1				○	3						
	トヨタ生産方式概論	3後		2			○								
	品質管理工学	4前		1			○								
	経営管理工学	4前		1			○								
	国際標準化戦略論	4前		1			○								
	特別講義	4前		1			○		1	1					
ブラクテイス	工学リテラシー1	1前	1					○	3	1		1		合同	
	工学リテラシー2	1後	1					○	1	3		2		合同	
	工学基礎実験1	2前	1					○	5			1		合同	
	工学基礎実験2	2後	1					○	2	3		2		合同	
	工学実験	3前	1					○	8	7		5		合同	
	創造性開発セミナー	3後	1					○	4					合同	
	現代工学概論1	2前	0.5				○		1					兼7 オムニバス	
	現代工学概論2	2後	0.5				○		1					兼6 オムニバス	
技術開発特論	3後	1					○	1					兼1 オムニバス※実習		
実習・研究	学外実習Ⅰ	1後	3					○						企業実習	
	学外実習Ⅱ	3後	4					○						企業実習	
	学外実習Ⅲ	3後		1				○						企業実習	
	卒業研究1	4前・後	4					○	29	19		6			
	課題研究1		4				○	29	19		6				
	卒業研究2	4前・後	4					○	29	19		6			
	課題研究2		4				○	29	19		6				
小計(90科目)	—	23	136.5	0			—	29	21	0	6	0	兼26	—	
合計(163科目)		—	31.5	222.5	2			—	30	21	1	6	0	兼48	—
学位又は称号	学士(工学)		学位又は学科の分野			工学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
・4年以上在学し、全ての必修科目を修得したうえで、以下の単位数を修得していること。 教養科目12単位以上(教養コア科目6単位以上)、外国語科目10単位以上(英語科目8単位)、健康・体力科目2単位以上、工学基礎科目24単位以上、専門科目60単位以上(主専攻分野科目30単位以上)、両科目合計108単位以上、科目総合計132単位以上 ・英語Step-Up Point制度のポイント100点以上を取得していること。 ・履修科目登録上限:単学期25単位かつ年間49単位。						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

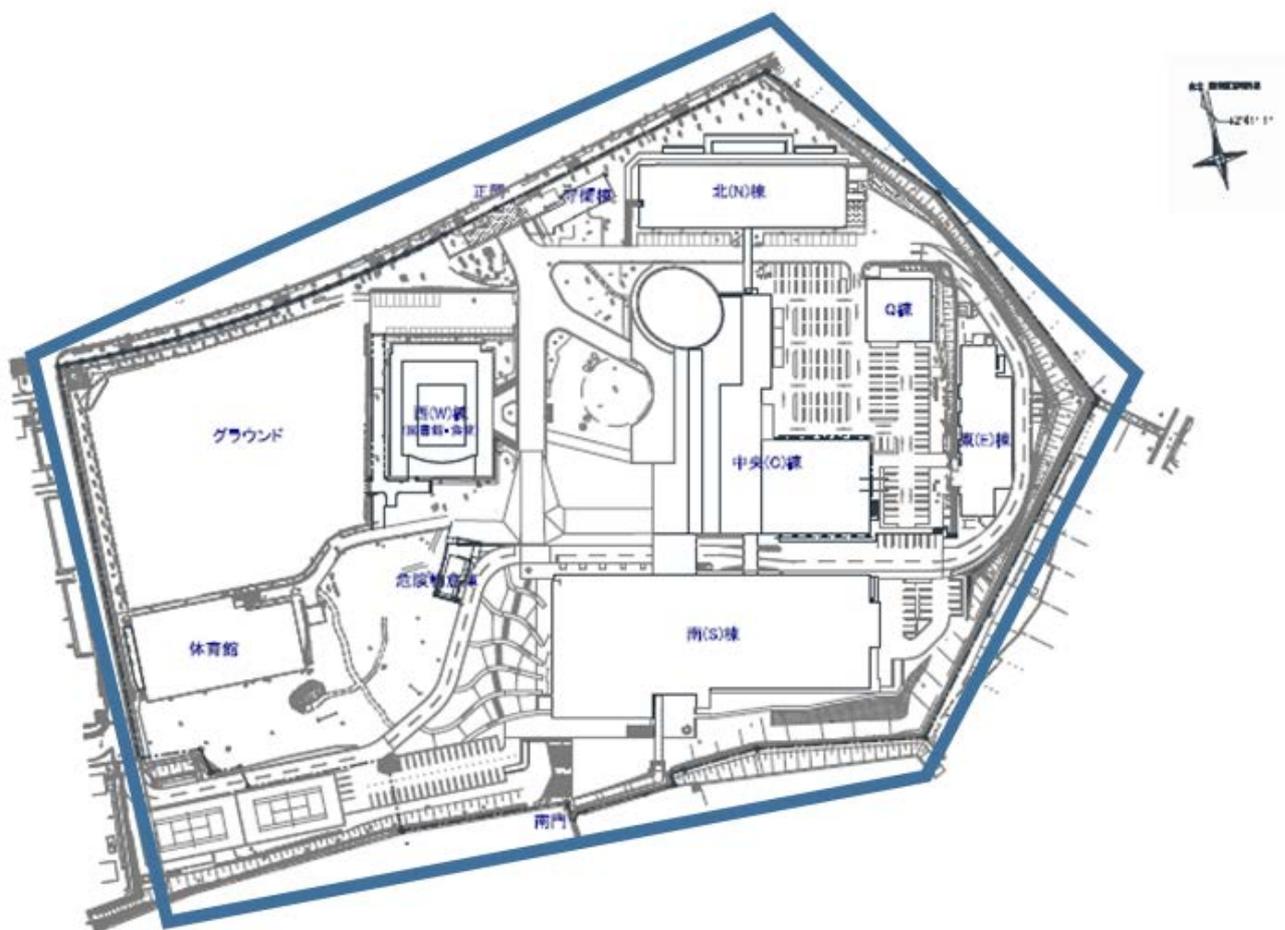
学校法人トヨタ学園 収容定員の変更に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
豊田工業大学 工学部				豊田工業大学 工学部				
先端工学基礎学科	90	—	360	先端工学基礎学科	<u>100</u>	$\frac{3\text{年次}}{6}$	<u>412</u>	入学定員変更(10) 編入学定員新設(6)
計	90	—	360	計	<u>100</u>	$\frac{3\text{年次}}{6}$	<u>412</u>	

(2) 最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面



(3) 校舎、運動場等の配置図 (完成年度のもの)



- ・校地面積：65,526 m²
- ・校舎面積：38,874 m² (中央 (C) 棟 (2020年6月下旬竣工予定) を含む)
- ・校地・校舎の共用はなく，すべて工学部および工学研究科が使用

豊田工業大学学則（抜粋）

（規程 第 1 号）

（前略）

（入学定員及び収容定員）

第 3 条 本学の学部の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学 科	入学定員	編入学定員 (3 年次)	収容定員
先端工学基礎学科	100 人	6 人	412 人
総 計	100 人	6 人	412 人

（中略）

附 則

- 1 本学則は、令和 3 年 4 月 1 日から改正施行する。
- 2 ただし、変更後の第 3 条にかかわらず、収容定員は、各年度の入学定員に対応させる。

（以下、省略）

学則の変更の趣旨等を記載した書類

目次

ア. 学則変更(収容定員変更)の内容	
学部入学定員を90名から100名に増員, 及び3年次編入学定員(6名)の新設 P. 1
イ. 学則変更(収容定員変更)の必要性	
社会人大学としての開学期と現在 P. 1
中長期計画における定員増員計画 P. 1
3年次編入学定員の新設 P. 2
選抜区分別の定員割振りについて P. 3
ウ. 学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程等の変更内容 P. 3
(ア)教育課程 P. 4
(イ)教育方法及び履修指導方法 P. 4
(ウ)教員組織 P. 5
(エ)大学全体の施設・設備 P. 5

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア. 学則変更(収容定員変更)の内容

学部入学定員を90名から100名に増員、及び3年次編入学定員(6名)の新設

豊田工業大学(以下、本学と略記)は、2021年度から、下表のとおり工学部先端工学基礎学科の入学定員を90名から100名に、また、3年次編入学定員6名を新設し、収容定員は360名(90名×4学年)から412名(100名×4学年および6名×2学年)に増員する計画である。これは学部の収容定員増変更となるため、ここに認可申請を行うものである。

【豊田工業大学工学部における入学定員および収容定員変更内容】

変更後				←	変更前			
学部・学科	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員		学部・学科	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
工学部 先端工学基礎学科	100名	6名	412名		工学部 先端工学基礎学科	90名	(-)	360名
学部合計	100名	6名	412名		学部合計	90名	(-)	360名

イ. 学則変更(収容定員変更)の必要性

社会人大学としての開学期と現在

本学は、1981年に、実務経験をもつ社会人を優先的に受け入れる大学として、トヨタ自動車株式会社の社会貢献事業により開学した。建学の理念を明治の発明王、豊田佐吉翁の遺訓『研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし』とし、「社会との緊密な交流連繋のもとに、豊かな人間性と創造的な知性を備えた実践的技術者を育成し、合わせて深く専門の学術を研究し、もって学術文化及び社会の発展に寄与すること」を大学の目的としている(『学則』第1条)。

1992年までは、入学者は大学院も含めすべて社会人の実務経験者であったが、大学進学率の高まりや企業の就業人員不足もあって、それ以降は社会人のみでの優秀な学生確保は難しくなってきた。一方、教員体制や設備は十分なものがあり、また社会人学生とともに学ぶことによる教育効果も期待できることから、1993年から一般選抜での学生受入れを開始した。その後、定員は開学当初から80名を継続してきたが、本学の学力水準の上昇や高い就職率などを背景に学部一般選抜の志願者数は増加傾向が続き、定員超過が発生する事態も続いた。このため、厳格な定員管理の必要性と本学入学希望者への期待に応えるべく、2017年には入学定員を90名に増員し、現在に至る。

中長期計画における定員増員計画

今回申請する学部入学定員100名への増員は、本学設立準備段階から将来構想として検討してきたものであり、本学にとっては長年の目標ともいえるものである。「豊田工業大学の長

期ビジョン（15～20年先）」において実現に向けた具体的検討を開始し、「第1期中期プラン（2011年～2013年）」「第2期中期プラン（2014年～2018年）」においては、カリキュラム改定（「士（サムライ）型の人材育成」等）やキャンパス刷新への着手など、教育環境の充実に努めてきている。2017年には学部入学定員を90名へ増員した。これは、当時続いていた本学志願者の増加傾向と定員超過への対応であったが、新キャンパスの整備途上であったことから、目標の学部入学定員100名の一部前倒しとし、既存の施設・設備環境の下で少人数教育を行う本学の特色を損ねない範囲の増員に留めた。

現在は長期ビジョンの集大成となる「第3期中期プラン（2019年～2023年）」を迎えており、継続的な教育プログラムの改善やキャンパス建て替えによる教室の増強、教員の増員など、学部入学定員100名への増員を実行に移す準備が整っている。定員の増員については、少子化状況下での他大学への影響や、質の確保の点からも慎重にすすめる必要がある。しかし、一方で近年の本学への入学志願者数の増加や高い就職率が示すように、「高校生が入学したい」、また「企業が採用したい」大学としての責任もあり、今回の増員は本学に求められている社会的要請であると考えている。

3年次編入学定員の 신설

本学では、1998年度より高等専門学校（以下、高専と略記）から3年次編入学生の受け入れを開始している。例年、地元の高専から個別の大学説明会の実施を依頼されるなど、3年次編入学希望者は増加傾向にある。実際の入学者については、地元だけではなく、全国の高専から編入学の実績があり、今後も一定数の入学者が見込まれる。

編入学後の教育体制にも配慮している。特に、3年生以降の学習の軸となる専門分野の選択においては、高専で培ってきた専門性をさらに伸長させるため、高専での専門を主専攻分野として選択できるようにしている。3年次編入学生は入学後の成績も総じて良好で、約半数が本学大学院へ進学しており、国際学会で発表を行うなど、研究においても活躍している。

このように、3年次編入学生は多様な学生の確保の観点から本学にとって重要な位置づけにあり、今後も継続して入学者を確保したい。

上記のような背景の中、これまで学則においては編入学生定員を定めず、学生募集要項において若干名としてきた。しかし、今後も近年のような入学者数が見込まれるため、3年次編入学生の入学定員を新たに設定することとしたい。定員数は、過年度の入学状況や研究指導体制等を考慮し、6名とする。

選抜区分別の定員割振りについて

今回の定員増員に伴い、選抜区分別の定員割振りは下表のとおりとする。

【選抜区分別の定員割振りの内容】

変更後			変更前	
選抜区分	定員	増減	選抜区分	定員
一般選抜	70名	-	一般選抜	70名
<u>推薦選抜(公募型)</u>	<u>10名</u>	<u>+10</u>	専門高校特別選抜	若干名
社会人特別選抜	20名	-	社会人特別選抜	20名
外国政府派遣留学生特別選抜	若干名	-	外国政府派遣留学生特別選抜	若干名
小計	<u>100名</u>	<u>+10</u>	小計	90名
高専第3年次編入学試験	<u>6名</u>	<u>+6</u>	高専第3年次編入学試験	若干名

入学定員増の10名については新設する推薦選抜（公募型）に割振る。若干名の専門高校出身者のみを対象としていた従来の専門高校特別選抜を刷新し、選抜の対象を拡大することで、本学におけるダイバーシティ推進の一環として多様な経歴・背景を持つ学生を受け入れ、大学のさらなる活性化を図る。なお、新設の推薦選抜（公募型）については、学生の確保の見通しにおいて詳述する。

社会人特別選抜における定員は現状の20名を維持する。近年は、企業への募集広報活動強化により、社会人入学者の確保に改善が見えつつある。一方で、一般入試志願者の増加傾向への配慮も必要なことから、現状維持とする。しかし、本学教育の特色である一年次全寮制において、社会人経験やリーダーシップは集団生活における教育効果が高いため、社会人学生確保について引き続き努力するところである。

外国政府派遣留学生特別選抜については入学実績が少ないため、定員は特に定めず、100名の内数として運用していく。

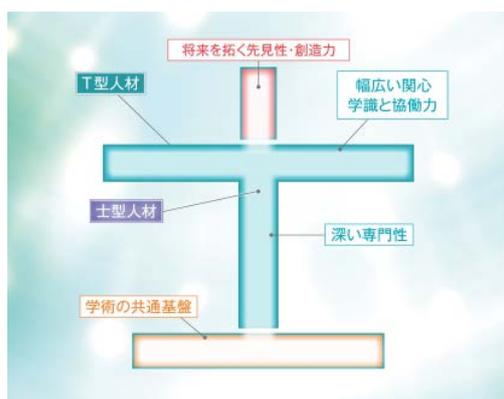
ウ. 学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程等の変更内容

今回の定員変更は、教育課程や教員組織の変更を主眼に置いたものではないため、教育課程等の変更は行わない。一方で、これまで取り組んできている教育カリキュラムの見直しやキャンパス整備等については、既に学部入学定員100名を念頭においてきた。具体的には、以下の取組を推進することで教育の質を向上させ、結果的に学生確保に向けた大学の魅力を高める。また、こうした取り組みを実現するため、意欲・能力の高い教員の採用活動を積極的に進め、教員組織の充実を図る。

(7)教育課程

<士（サムライ）型の人材育成>

突出した能力を持つ学生や型破りな学生が生まれる土壌をつくること、そしてモノづくりに秀でるなどの「豊田工大生らしさ」をすべての学生が身につけ、自信と誇りを持って社会に飛び立てるような教育環境を整えることが、本学カリキュラムの趣旨である。



従来、工学の分野では「T型人材」という言葉が使われてきた。ここで、横棒は「幅広い関心・学識と協働力」、縦棒は「深い専門性」を表す。本学ではそれに「学術の共通基盤」という底の横棒、「将来を拓く先見性・創造力」という上の突起を加え、「土型人材」の育成を目指している。

幅広い分野を横断して学ぶハイブリッド型履修（1・2年次）と、専門分野に特化した学習（3・4年次）をベースに、「創造性開発プログラム」を通じて、エンジニアにとって背骨となる創造性・自立性を磨く。卒業研究・課題研究において必要な課題発見能力や創造力を1年次から段階的に育むことが、本プログラムの特長である。

また、広い視野から問題意識を持って社会に貢献できる国際性を備えた学生を育成するために、教養教育と英語教育を充実させている。

さらに、企業から招いた講師による科目も数多く開講するなど、導入・キャリア教育にも力を入れている。

及第点を取ることで満足することなく、自分の能力の限界に挑戦する活力ある学生を育て、社会に「士（サムライ）型」の実践的で先導的な技術者・研究者を送り出すことを目指している。

(4)教育方法及び履修指導方法

<6年一貫教育>

本学では、学部の4年間と大学院修士課程の2年間を積み上げた6年間を一体として考える教育も重視している。6年の期間で計画的に学ぶ教育体制のもとで、基礎的な知識からより先端的で高度な専門知識、確かな技術、そして世界を舞台に活躍するための英語力をじっくりと身につけていくことで、高度な研究分野に挑み、新分野・新産業を開拓する技術者・研究者を育てる。

<少人数教育>

教員や他学生との交流を密にできる少人数での教育環境は、私塾のように学生一人ひと

りに対する手厚いサポートができ、専門知識の修得だけにとどまらない、全人的教育が可能となっている。学生それぞれに教員がアカデミックアドバイザーとしてつき、履修指導から学生生活上の相談まで幅広く対応する。また、全ての学生が優れた研究施設で最先端の実験装置に触れながら学べるという点もメリットといえる。教員 1 名あたり学生数は、10.2 名（大学全体、2018 年度 5 月時点）であり、私立大学平均 19.7 名を大きく上回り、国立大学平均 9.4 名に比肩する。学部入学定員 100 名に移行完了後（2024 年）も、次項で述べる教員 60 人体制を実現するので、一層の充実が図りうると考えている。

区分	在籍者数（人）	本務教員数（人）	教員 1 名あたり学生数（人）
国立	608,969	64,562	9.4
私立	2,144,670	108,761	19.7
本学	479	47	10.2

（2018 年度「学校基本調査」）

(ウ) 教員組織

本学の教員組織は、大学設置基準に定められている人数要件 21 人を十分に満たす 49 人（2019 年 10 月 1 日時点）となっており、学部入学定員 100 名へ変更後においても、授業（特に実験・実習・演習）では、きめ細かな教育指導を施せる体制が整っている。さらに、第 3 期中期プランにおいて、教育・研究の将来的な方向性として、バイオ分野ないしは A I 分野等との積極的な連携による本学の主要研究分野（機械システム、電子情報、物質工学）のさらなる発展を掲げている。その実現のため、第三期中期プランにおいて 2023 年を目標に教員体制を 60 人に増強する計画を進めていて、教員組織はさらに拡充する予定である。

(エ) 大学全体の施設・設備

本学は、現キャンパス（80,574 m²/参考：収容定員変更後の設置基準上必要面積は 4,120 m²）で、順次、校舎の刷新を進めている。新しいキャンパスの概要を次表に示す。

建物名	完成時期	概要
国際交流ハウス	2015 年 4 月	留学生、大学院生向けの寮施設、集会室
久方寮	2016 年 11 月	学部生（特に 1 年生は全寮制）向けの寮施設
東（E）棟	2015 年 8 月	クリーンルームを具備する研究施設
南（S）棟	2018 年 2 月	教室、創造性開発工房、研究・実験棟、事務局事務室
中央（C）棟	2020 年 6 月	大ホール、ラーニングコモンズ、ラーニングモール、多目的室、語学学習・国際交流施設、購買施設 等

「南（S）棟」は、教室、研究室・実験室を備えた本学教育の中心的な施設である。教室は 4 階と 6 階に集約し、5 階に事務局事務室を設置して、学生の導線に配慮している。教室や実験室、創造性開発工房（工作実習工場）等の教育・研究施設については、すべて学部入学定員 100 名を見越した設計をしており、十分な教育環境を確保している。

2020年6月末に完成予定の「中央（C）棟」には、ラーニングコモンズ・ラーニングモジュール等を備え、従来持合わせていなかった機能を拡充させる。また、研究室・実験室も備え、近い将来の教員の増強に備える。あわせて、各種学内行事や研究シンポジウム、公開講座等に供する大ホールも、従来施設から規模と機能を拡張する形で新設する。

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生確保の見通し

ア. 定員充足の見込み P. 1

イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要 P. 3

②学生確保に向けた具体的な取組状況 P. 6

(a) 戦略的広報計画に基づく学生募集基盤の構築 P. 6

(b) オープンキャンパス・説明会による本学理解の促進とファン・
支援者の獲得 P. 7

(c) 高校・予備校への訪問を通じた本学への理解促進活動とアンケ
ート調査 P. 8

(d) 高校生対象の体験実習講座の開催や高校への出張講義の実施
(高大連携) 等 P. 9

(e) 社会人特別選抜における受験生の獲得と今後の課題 P. 10

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要) P. 11

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであ
ることの客観的な根拠 P. 12

(a) 就職決定率の状況 P. 12

(b) 企業との連携によるカリキュラム等の検討 P. 12

(c) 企業派遣技術者による授業科目の設定 P. 12

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

豊田工業大学（以下、本学）の工学部先端工学基礎学科（本学は1学部1学科構成）の入学定員を100名に変更する計画は、2008年に策定した本学の長期ビジョンに基づくものである。定員を増やしても質の高い教育・研究を行うための施設整備に加え、少人数（教員一人あたりの学生数は10人程度）の教育環境を維持・向上すべく、本学のキャンパスの全面刷新が進行しており、教員数も2割増やす計画が第三期中期プランに盛り込まれている。

この将来構想を具現化すべく校舎の全面建て替え工事を進めてきた結果、講義や実験実習を行う主要校舎が完成した2017年度に、それまで80人だった入学定員を90人に変更した。そして、2020年6月末に全ての校舎建て替え工事が完了するのを機に、2021年度より入学定員を100名に変更したいと考えている。これら取り組みにより、入学定員を10人、収容定員を合計で40人増やしても、「少人数の塾的大学」としてきめ細かな学生指導を行うことは十分に可能な環境が整備されていると考える。

また本学は、開学以来、小規模大学の良さを活かして質の高い独自の工学教育を進め、実践的な創造力と豊かな人間性を備えた人材を育てることで社会に貢献することに努めてきた。その結果、産業界からの求人が安定して確保されるとともに、入学志願者の数も入学定員を大幅に上回る状態が続いている。このことから、本学が小規模教育の利点を損なわない範囲で、定員を100名に増やすことは社会的にも望まれているとの認識に至り、その具体化を進めることを理事会で決定したものである。今回の定員増は、こうした社会的要請に応えるためのものである。

さて、本学は、1981年にトヨタ自動車株式会社の社会貢献活動の一つとして設立され、当初は社会人大学として運営されたが、1993年に高校卒業生にも門戸を開き、現在では、高校卒業生が入学者の8割以上を占める大学である。一般選抜における志願者の学力レベルを把握する手段の一つとして、大手予備校などが公表しているセンター試験を基にした入学試験の難易予想値等がある。そのデータに基づくと、本学入学には東海地域を代表する名古屋大学工学部や名古屋工業大学に近いレベルの学力が必要とされていることから（資料1）、学力の高い受験生を多く確保できていると言える。

本学の学部1年次に入学するための入学試験には、現在、「専門高校特別選抜（公募制推薦）」「外国政府派遣留学生特別選抜」「社会人特別選抜」「一般選抜」の4つの募集区分がある。現在の入学定員90名に対して、近年5年間（2015年～2019年）の総志願者数の平均は770.80人、入学者数の平均は91.80人であり（資料2）、十分な志願者数の確保と適切な入学者数の管理が行われている。

また、この度の定員増には、「多様な人材」が本学に入学できる門戸を広げたいとの考えもある。前記のように、本学の入学試験は受験対象者を指定したものが多く、入学者の多く

を占める一般選抜では、その試験特性から主に学力により合否が決まる側面もある。そこで、2021 年度よりこれまで募集人員を若干名として実施してきた現状の専門高校特別選抜（公募制推薦）を「推薦選抜（公募型）」として、工業科だけでなく普通科や理数に係わる学科など、全学科から多様な人材の受験が可能な入学試験（募集人員 10 人）に変更・拡充する準備をしているところである。

なお、この推薦選抜が募集人員 10 人を充足するか否かに関しては、現状の専門高校特別選抜においてもそれまで 1 人程度であった志願者が直近 3 年間では 3, 6, 7 人と増加傾向にあり入学者も 2~3 人を確保している（資料 2）。また、高校教員や予備校等へのヒアリングにおいても、学科を指定しない新たな推薦選抜の設置は望ましいとの反応を得ていることから、従来の入学試験を上回る人員を確保できると判断している。出願資格は現役生に加えて既卒 1 年目までを対象とし、出願に必要な評定平均値を 3.8 とすることで高校での勉学への取り組み姿勢を評価しつつ、出願可能な受験生の対象範囲を狭めない入学試験にすることを計画している。ただし、志願者・入学者を増やすための安易な入学試験にすることはせず、アドミッションポリシーに基づき本学の求める資質を見極める入学試験制度にすることが前提となる。その試験内容として教科試験（記述式）と面接試験を実施することで、学力の 3 要素に基づく基礎学力と人物評価からなる推薦選抜にすることとしている。仮にこの推薦選抜からの入学者が 10 人に満たない場合でも、その人員を一般選抜の募集人員に振り分けることで入学定員 100 人を確保できる見通しである。

次に募集人員を若干名として実施をしてきた「高専第 3 年次編入学試験」において、新たに入学定員として 6 人を設置することに関して記述する。

本学の高専第 3 年次編入学試験は、1998 年度より開始した。出願資格は 2001 年度以降は「3・4 年次の学業成績が原則として上位 1/5 以内」としており、入学試験では個人面接において学科に応じた工学基礎科目と英語の基礎学力を確かめる口頭試問を実施している。高専からの第 3 年次編入学者は総じて成績が良く、また学習態度や研究姿勢も良いことから一般選抜で入学した学生にとっても良い刺激になっており、多様な学生を確保する観点からも本学においては重要な位置づけとなっている。

この第 3 年次編入学試験の入学定員を 6 人とするにより、変更後の本学の学部収容定員の総数は前記の 400 人に 12 人を加えた計 412 名となる。3 年次の編入学定員を 6 人としたのは、学部の定員増と同じく適切な教育・研究環境を保つことができ、且つ多様な人材の受け入れによる教育の活性化のために適した人数と判断した結果である。また高専から大学で学びたいと考える編入学希望者に対して定員を設けることは、毎年一定数の編入学生を迎え入れるというメッセージを発信するとともに、学修意欲のある高専生に学びの機会を提供するという大学の義務も果たすことができると考える。

編入学試験の実施状況について示す（資料 3）。2007 年度までは 3 人程度であった志願者も、2010 年度より 10 人弱の志願者が集まるようになり、ここ直近の 3 年間では 15 人前後と、一時期の 5 倍の志願者を得るに至っている。入学者数もそれまで 4 人程度だったものが直近の 2 年ではそれぞれ 7 人になった。

志願者が増えた要因として地元の高専との関係強化が考えられる。特に直近の 2 年間は 10 人以上の志願者があり、その入学者が 4 人、7 人となる豊田工業高専では、毎年、学内説明会に出向き、学生や教職員へ本学への理解を深めてもらう活動を行っている。高専の教職員へのヒアリングにおいても、「豊田工大に編入学する卒業生が増えるほどに、後輩も進学先としての志願度を増している」との意見をいただいております、今後も一定数の志願者・入学者を確保できると考える。一方で豊田工業高専以外では産業技術高専をはじめ、沼津、岐阜、木更津、石川、茨城、呉、福島工業高専など全国から志願者を集めており、その中から毎年 2~3 人が入学している。この状況において入学定員を 6 人にしても、ある一つの高専からの入学者に頼ることなく全国からの入学者により定員を充足できる構造にあると認識している。一方で、小規模で質の高い教育環境を保持するためにも厳格な定員管理を行っていくことを確認している。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

学部 1 年次入学試験の詳細について（資料 2）により示す。本学工学部の最近 10 年間の入学志願者の内、一般選抜の受験者数は平均で 741.00 人に達している。この数値は、一般選抜の募集人員 70 人（学部全体の入学定員は 90 人）に対して、平均倍率は 10.58 倍になる。この一般選抜による入学者数の平均は 80.40 人であり、これに社会人特別選抜と推薦選抜等の入学者数の総和 10.20 人（平均）を加えると、平均入学者は 90.60 人となる。この数値は、2017 年度以降の入学定員（90 人）に対する超過率が 1.00 となることから、適切な定員が確保されていると考える。また、小規模大学に対する入学定員超過率のこれまでの許容上限（1.30）にも抵触していない。

最近の 10 年間では、2010 および 2017 年度に定員割れが生じているが、これは受験者の不足ではなく、入学率の歩留り予測の見誤りによるものである。また、志願者が隔年に増減する現象もなく、志願者数は高い値で安定している。従って、入学定員を 10 人増やしても入学者は確保される見通しである。

なお、参考までに、日本私立学校振興・共済事業団の調査「平成 31（2019）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（資料 4）から、小規模大学および理工系大学における志願倍率と充足率を引用し、本学との比較を示す。本調査結果（過去 5 年間のデータ）によると、全国で 35 校程度ある小規模大学「入学定員 100 人以下の大学」の志願倍率は 2.13 倍から 2.47 倍程であり、全大学の平均志願倍率（7.58 倍から 9.09 倍）より低く、苦戦しているのがわかる。それに対して本学は 8.14 倍から 10.15 倍と全体平均を上回っている。また、理・工学系学部の志願倍率の全国平均は 11.11 倍から 12.89 倍で志願者が多い分野であるが、本学も全国平均からはやや低い値ではあるものの、十分な志願者を集めていると言えよう。また、直近 5 年間の入学定員超過率は 1.06 であり、今後も適切な定員管理に努める所である。

募集人員が、2017 年度よりそれまでの 50 人から 70 人となった一般選抜では、その志願倍率が 2019 年度にかけて 12.78、10.55、10.11 と下降傾向にある（資料 2）。この要因は近

年の理系志望者の減少などの影響もあると認識している。一方で、志願者（本学は1次選考・2次選考の形式をとっており、志願者の全員が1次選考の受験者になる）のセンター試験得点率分布における過年度成績データ（資料5）を見ると、センター試験の全国平均点には毎年アップダウンがあることを考慮しても、出願が減少しているのは成績下位層からの志願者であり合否に関わる成績上中位層からの志願者は減少していないことは明らかである。大手予備校等が公表するセンター試験得点を利用した出願目安であるボーダーラインでは（資料1）、本学は名古屋大学工学部並みと高い値である。このことから成績下位層からの出願が減少したもので、本学の学生募集力が落ちてきている訳ではないと認識している。

また参考までに、一般選抜における本学と主要競合大学（国公立志向が極めて強い愛知県にあってレベル的に近似しているとの高校や予備校による評価）である名古屋大学工学部および名古屋工業大学の受験者のセンター試験のボーダー得点率と偏差値の比較を示す（資料1）。このデータでみると、本学が2次選考を面接だけで行っている点を考慮する必要はあるが、5教科7科目型で比較した場合、偏差値では、名古屋大学に拮抗する年度もある。また、名古屋工業大学は、偏差値では本学が上回る傾向にあるものの、国公立大学志向が強いという地元の特性もあり、両校に合格した場合、受験生は進学先として名古屋工業大学を選択することが多いとの情報が高校、大手予備校他から得られている。この点は、今後の対策課題でもある。

さて、本学の一般選抜では、センター試験を1次選考として用い、2次選考は個人面接により行っている。面接試験では、志望理由、勉学への意欲や目的意識、将来設計等を問うとともに、科学技術関連文献に関する質問を通じて読解力や思考力を評価するなど、多面的な評価を行っている。また、1年次には、人間性育成の観点から、原則として、全員が学生寮に入ることとしているが、この制度への適応性も確認している。

幸い、近年、質の高い多数の志願者が本学を受験するが、入学定員に近い数の入学者を確保するために、歩留りを予想し、それに基づいて合格者数や合否ラインを定めることには、小規模の単科大学ならではの難しさがある。入学者を90人（入学定員）から96人（実験・実習における最適規模）を目標に、超過したとしても117人（定員超過率1.30未満の上限値）の範囲になるよう、合格者数を決めることは難しい課題である。また、本学受験者のうち、1次選考を経て、2次選考を受験した者のほとんどが国公立大学を併願している（資料6）ため、入学者の歩留りは競合校の入試結果に大きく影響を受けて、予測が難しい状況にある。しかし、本学は過去の経験を蓄積することにより、定員を満たしつつ、本学で教育を行う最適規模数や定員超過率の許容上限を超えぬよう慎重に歩留りを予想し、細心の注意をして合格者判定を行ってきた。その結果、入学定員をそれまでの80人から90人に変更した2017年度から3年間の入学定員超過率は0.99と管理できており、また小規模校に許容されてきた上限（1.30）を超えたのも、2001年度の1回のみである。

他方、地方色が強い東海地区の大学にあって、本学は愛知・岐阜・三重県以外からの入学者も平均して3割以上あり（資料7）、全国各地から受験生を受入れている点に特色がある。入試広報は、地元を重きを置く一方、“全国区の大学”としての特色の維持にも努めている。

社会人特別選抜と推薦選抜にも触れておく。まず社会人特別選抜を取り巻く環境として18歳人口の減少、大学進学率の高まり、企業による高卒者の採用数の減少等が進行しているため、本学設立直後の1980年代に多く存在した「勉強がしたくても経済事情により大学進学を諦める」社会人の数が激減している。本学に社会人学生を送り出してきた企業から成る「豊田工業大学派遣企業の会」からも、「高卒の従業員の数が減り、彼らを休職等の形で、4年間にわたり大学に派遣するのは厳しくなった」との声が出ている。社会人特別選抜の募集人員を30人から20人とした2017年度より、企業への学生募集活動を見直し、入学試験制度の説明や入学後の学習フォローなどについての企業との情報共有を強化したこと、また企業が抱える社員派遣や人材育成上の課題に対して他社の取り組み事例などを共有し、大学派遣への障害を減らすことで、直近3年間では16、12、18人の志願者を獲得するなど一時の一桁台の志願者数からは募集面での改善がみられるようになった(資料2)。社会人特別選抜における募集人員の未充足分は一般選抜合格者からの受け入れに振り替え、入学定員を充足してきたが、社会人学生のさらなる入学者数の確保に向けた取り組みが必要との認識を持っており、今後の取り組みを強化していくことを確認している。

推薦選抜は「専門高校特別選抜(公募制推薦)」「外国政府派遣留学生特別選抜」という2つの募集区分からなっており、募集人員はどちらも若干名としてきた。後者の外国政府派遣留学生特別選抜は、過去10年間では1名(資料2)、総実績としても2名であり、直近では2016年度に1人の入学生がいるが、受験対象者は限定的であり、その募集活動は大使館からの問い合わせへの対応や、日本国内の外国人向け予備校への情報提供が中心である。2016年度に入学したタイの留学生は勉学の取り組み姿勢も良く、寮生活では下級生への指南をするサポーター役を務めるなど、邦人学生の見本になる学生生活を過ごしている。

専門高校特別選抜は、2021年度選抜において受験対象を専門高校に限定せず全日課程の全学科から出願が可能な推薦選抜(公募型)として新たな入学試験を実施することを計画している。これまでの工業科のみを対象としていた入学試験における受験状況の推移(資料2)を見ると、2013年度から3年間は志願者0人であったが、その頃より全国へ向けた広報・募集活動(工業科に限った活動ではない)に力を入れたことに伴い2016年度の志願者1人を皮切りに2019年度は7人まで増加しており、うち2~3人程度が入学している。

新たな推薦選抜は、工業科からの受験も引き続き可能であることに加え、普通科をはじめとする全日課程の全学科からの出願が可能なことから、募集人員10人に相応した志願者・入学者を十分集められる入学試験になると想定している。また本選抜は既卒1年目までの受験者の出願を可能とすることもプラスに働くと考えている。本学の一般選抜における志願者の既卒者比率は、センター試験の志願者に占める既卒者比率より20%程度高い35%~40%となっており、入学者に占める既卒者比率も毎年30%以上と高い(資料2)。また予備校からも、既卒者になってから本学に強く関心を持つようになる学生がいることを聞いている。新しい推薦選抜については高校・予備校等への周知を行うとともに、受験生・保護者との接点となるオープンキャンパス・説明会での告知を徹底する。本選抜においても留意すべきは、

本学の教育・研究環境の質を落とさないことであり、仮にこの推薦選抜から入学者が10人に満たない場合は、その人員を一般選抜の募集人員に振り分けることでレベルを維持しつつ、学部の入学定員100人を確保する計画である。

次に、高専第3年次編入学試験に関して記述する。本学の編入学試験は、その募集人員を若干名として実施してきた。下記の表（第3学年編入学試験データ）にあるように、過去10年間の平均志願者数は10.80人となるが、毎年10人以上の志願者を得るようになったのは2017年度以降の3年間となる。入学率は年によって37%～71%まで大きく振れることもあったが、志願者が増加した2017年度以降の3年間の平均は47%となっており近年は安定しつつある。

【第3学年編入学試験データ】

入試年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	平均
募集人員	若干名											-
志願者数	8	10	7	9	3	10	7	8	14	16	16	10.8
受験者(*1)	8	10	6	8	3	9	7	8	10	13	15	9.7
合格者	7	9	6	5	3	8	7	7	10	13	15	9.0
入学者数(*2)	4	4	4	3	2	4	5	4	4	7	7	4.8
入学率(*2/*1)	0.50	0.40	0.66	0.37	0.66	0.44	0.71	0.50	0.40	0.53	0.46	0.49

さて、2017年度以降は志願者が増加しているが、その要因は地元の豊田工業高専からの志願者が増加していることによる（資料3）。豊田工業高専に関しては毎年4月に高専内で説明会を実施し、カリキュラムやその履修、研究室配属や研究活動、大学院進学と就職状況などの卒業生の大学生活の詳細を伝えるとともに、希望者には後日に志望研究室見学やその指導教員との面談を行うなど、本学入学後の学修やその後のキャリアプランなどを描いてもらう取り組みを充実させることで安定的に志願者を確保できる状況となった。また、それまでは機械系からの志願者が大半であった状況にあつて、電気電子・情報などの他学科からの志願者を獲得できていることも、今後一定数の入学者を確保できる要因になると考える。この状況に加えて、毎年全国の高専より数名の志願者・入学者を得ることにより、高専第3年次編入学試験の入学定員6名を充足することができると考える。

②学生確保に向けた具体的な取り組み状況

本学は、受験生を確保するために、学生募集（入試広報）活動を事務局の広報・入試室と教員が連携を図りながら行っている。地元中心の募集に力を入れる傾向がある東海地区にあつて、本学は全国から受験生を集めるための募集活動に力を入れている。主な取り組みとして、以下に5例(a)～(e)を挙げる。

(a) 戦略的広報計画に基づく学生募集基盤の構築

限られた予算の中で効果を出すため、広報エリアや対象を絞った広告を段階的に発展させながら全国に展開している。そのための短・中期的広報計画を作成し、以下のように進

めてきた。なお、第1次から第4次へと進行するにあたり、各次計画が進んでも前次の取り組みは効果具合を判断しながら継続している。

- ・第1次（2010年）：「東海3県」への広報強化、保護者への訴求
- ・第2次（2013年）：「西日本（東海より以西）」への広報強化、成績上位層への訴求
- ・第3次（2016年）：「東日本（東京・仙台・札幌を中心）」への広報強化
- ・第4次（2018年）：「全国の成績上位層」への広報強化

この計画の遂行においては、年間費用の多くを占めている従来型の受験情報誌への広告掲載を一部やめ、ターゲットとなるエリアとその対象者に伝えることができる広報を実施している。またスマートフォンの普及に合わせWebを主体とした広告に切り替えている。この効果を測る手段としては、資料請求者数や受験生の学力レベルの変化などで検証している。特に資料請求者数はその数字をそのまま本学の関心の高さと捉えることはできないが、中長期的には志願動向を把握することができる数字であると考えている。実際の数字（資料8）を見ると、第1次計画を実施した2010年度の資料請求者数4,287名は、2018年度は11,307名まで増加しており、東海エリアだけでなく西日本・東日本からの資料請求者数も大幅改善されている。

また、受験生を将来にわたり安定的に確保するには、とりわけ成績上位層から志願者を得ることが重要と認識している。その対応として、予備校を対象とした広告や名古屋大・大阪大など学力レベルの高い志願者に向けた広告などを行った結果、主要な国立大学志願者からの本学併願者が増える（資料9）など一定の効果を表している。加えて、受験者のセンター試験の得点率分布を過年度と比較すると、年度によって増減はあるものの、総じて得点率80%以上は増加傾向にあり（資料5）、受験者の学力レベルの底上げと成績上位層の獲得がなされていることが確認できる。今後は、西日本で成果が得られた広告媒体や活動を東日本へも順次範囲を広げることで、全国から優秀な受験生を募るとともに本学の知名度の向上を図る。

広告に関しては受験情報誌への掲載だけでなく、ビジネス誌や新聞等に一般記事として本学の教育・研究内容が取り上げられることによる効果が高い。一般記事による報道の利点は、経費が不要、客観性の担保、受験に係わりのない人々へも広く情報発信できることにある。本学には、優れた就職実績、独自の一年次全寮制教育、有力企業でのインターンシップ、実践的な創造性を育成するカリキュラム、国際性を高める独自の取り組み、低廉な授業料、再生可能エネルギーをはじめとする研究成果など、興味深い話題も多く、一般のメディアに紹介される機会が本学の認知度向上に大きく寄与している。このような報道が、入試広報の活動を補完する形になっている。

(b) オープンキャンパス・説明会による本学理解の促進とファン・支援者の獲得

受験生やその保護者に本学の理解を深め、志願度を向上してもらう最良の機会は、オープンキャンパスなど直接的に受験生と接点を持つイベントとなる。本学では、イベントの目的と対象ごとに以下の取り組みを行っている。

- ・オープンキャンパス：5月2回、7月2回、9月2回

- ・高校、予備校の教職員対象説明会：11月
- ・受験生の保護者説明会：12月
- ・理系女子学生のための進学相談会（名古屋工業大学と共催）：9月、10月、11月

オープンキャンパスは対象を定めず、誰もが参加できる機会として年に6回、プログラムもそれぞれ異なる形で実施している。2010年度には369人だった参加者総数も2018年度には955人と増加（資料8）している。この数値の増加が、ただちに受験生の増加に繋がるとは楽観できないが、本学への関心や理解を深めた高校生や保護者が増えることは、将来的には受験生の増加に繋がるものと確信している。

オープンキャンパスでは、大学概要・入学試験の説明、体験授業、研究室見学、学内施設見学、大学生との個別相談などが同時に行われており、来場者は各プログラムに自由に参加できる形式となっている。また、各プログラムには在学生在が携わっており、学生目線で本学の雰囲気や日頃の大学生活の様態などの生の声が伝わることから来場者より好評を得ている。またオープンキャンパスは情報発信ばかりでなく、情報を収集する機会でもあることから、来場者にはアンケート（資料10-1）の提出を求めている。年に6回実施されるオープンキャンパスの満足度（7段階評価）は、直近4年間では各年の平均値が6以上という高い値（資料8）となっている。また、自由記述欄があり、「全寮制教育」「カリキュラム」などに関する参加者の意見を（資料10-2）今後の説明会の在り方や大学運営などを検討する際に役立てている。

その他の説明会は、参加者の属性によりプログラム内容を変えることで、よりその参加者の関心が高い事柄を伝えるよう工夫している。例えば、高校・予備校対象説明会では、カリキュラム・実験実習などの学生への指導状況を大学教員との懇談会形式で行い、理系女子相談会では在学女子学生による女性視点での大学紹介などを実施している。この理系女子相談会では、イベント満足度の集計をはじめた2016年度から3年間の平均が6.34（7段階評価）であり（資料8）、オープンキャンパスと比べても高い満足を得ている。こうした取り組みは、もちろん本学のファン・支援者を増やすことが目的だが、本学に限った情報提供に留まるのではなく、広く工学部での学びや工学系人材として求められるポイントなどを伝えることで「工学」そのものの理解者が増えることに貢献していきたいと考えている。

(c) 高校・予備校への訪問を通じた本学への理解促進活動とアンケート調査

高校や予備校への訪問を行い、本学の教育・研究や就職状況、入学試験に関する説明を行うことで、本学への理解を促進する活動に取り組んでいる。訪問は入学試験担当事務職員が継続的に行うことで、本学への意見や要望も積極的に聴取している。この双方向の情報交換は大学運営面の改善にも貢献しており、特に近年では高大接続改革における大学入学試験制度の在り方などに関して、高校・予備校現場の意見をその検討に役立てている。また、高校へは大学の初年次教育の取り組み状況などを提供することで、シームレスな理系教育の在り方などの意見交換も行っている。

こうした訪問は地元の東海エリアでの活動が中心になるが、入学者の3割以上は東海エ

リア以外からであること（資料 7）、資料請求においては西日本からの請求が比較的にも多いことも考慮し（資料 8）、2014 年度より受験者の多い福岡県で大学説明会の開催と近隣の高校訪問を行うとともに、2017 年度からは九州各県に所在する北九州予備校にて校内説明会を実施させていただいている。福岡・長崎など各県の校舎を訪問し大学紹介をする傍ら、予備校生への説明会の機会をいただき、本学の特色や工学部での学び、東海地区の製造業とそこへの就職状況などを伝えている。この模様はビデオ撮影させていただいており、北九州予備校の他校舎にもその模様を映像配信させていただいている。

さて、受験生の志望動向や受験要因などを知るには高校・予備校への訪問による現場ヒアリングだけではなく、本学では受験生へのアンケート調査（資料 11-1, 11-2）も有効活用している。このアンケートは出願時に任意で提出してもらっているもので、その目的は受験者からみた本学の魅力や志望動機を把握し、どのような点を広報活動で訴求していくかに役立てることにある。また入学生にも入学直後にアンケート（資料 12-1, 12-2）を実施している。前記の出願時とは異なり、実際に入学試験が終わった時点でより実態に近い入学要因を調査することで、受験生のニーズに応じた広告内容の指針を見出すだけでなく、併願大学と本学の入学志望順位の関係や、入学意思が決まるタイミングに応じた追加合格の発動時期の検討など、入学試験制度の在り方そのものに参考となるデータを収集している。なお、どちらのアンケートも無記名で実施しており、あくまで傾向などを理解する目的で実施している。

(d) 高校生対象の体験実習講座の開催や高校への出張講義の実施（高大連携）等

本学では「サイエンス体験プログラム」という名称で、高校生向けの授業や実験実習を大学施設を活用して提供するとともに、本学教員が高校に出向いて講義や実験を行う活動を幅広く行っている。2018 年度は 16 校 474 人に 34 講座を提供した（資料 13）。講座の提供は 1 日ばかりのものも多く、その準備等を合わせると 2 日かかることもある。近年は高校生へ提供する講座内容としてより適切なものを厳選し、30 講座を 500 名程度の高校生へ提供している。こうした取り組みは、大学による高校教育への社会貢献として実施しているが、一方で多くの高校で本学への理解を深めてもらう機会でもある。特に理系人材の育成という観点ではスーパーサイエンス・ハイスクール（2 校）やサイエンスパートナーシッププロジェクト事業採択校（3 校）、理数科を設置する大学進学に力を入れる高校（1 校）との連携も強まっており、そうした高校から徐々にではあるが安定的に優秀な受験生が見込めるようになってきている（資料 13）。

また、これとは別に愛知県教育委員会からの委託事業として「知の探究講座」という高大連携活動も行っている。この講座は、愛知県が募集した高校生を毎年 10 人程度大学で受け入れ、夏休み以降に異なるテーマの実験実習 6 回と発表会 1 回の計 7 回の講座等を提供している。この取り組みは、2003 年度から愛知県が実施した「あいち・知と技の探究教育特区事業」への協賛要請を受け、実験講座や研究室体験等で高校生を指導したことに端を発する。要請を受けた大学は、名古屋大学、名古屋工業大学、愛知県立大学および本学であった。モノづくり立県の愛知にあって、工学教育や産学連携の面で先進的な取り組みをしている

大学とみなされ、私学では本学のみが県教委から指名を受けたものである。また、連携校である南山大学の附属小学校からの要請に応え、小学生の理科への興味を深めるための実験や講座も提供している。これらの取り組みも社会貢献の観点で進めているが、本学の知名度向上にも繋がっている。

(e) 社会人特別選抜における受験生の獲得と今後の課題

社会人学生の特徴は、本学の特色を発揮するうえで欠かせない存在である。社会人学生は高校卒業生と比べて入学時の学力は低いものの、その旺盛な学習意欲から成績を向上させることや、実習科目や全寮制教育においては企業での社会経験から高校卒業生を牽引する役目も担っている。高校卒業生はそうした社会人学生から学びの姿勢や社会人としてのコミュニケーション力の高さなどで刺激を得ている一方で、入学時点では社会人学生が劣る数学・理科などの勉強を教えるなどしており、双方がお互いを高めあう教育効果をもたらしている。

社会人の入学者は、前記のとおり 2017 年度以降は企業との情報共有の強化に努めたこともあり、2014 年度の 4 人から 2019 年度では 15 人まで回復した（資料 2）。しかし、20 人の入学定員は満たせていない。この件は「豊田工業大学派遣企業の会（2019 年度は 40 社で構成）」でも検討され、大学進学者の増加等の社会情勢の変化と産業構造の変化による影響が大きいとの認識に至っている。一方で、企業においても優秀な人材採用が難しくなる今後、雇用している社員の能力を高め業務に必要な知識を修得しキャリアアップを可能とする大学派遣制度は有効との認識もある。企業との意見交換を行う中でみえてきた人事・育成における諸課題、例えば技能職から技術職への職種を変更する際の学位取得の問題や、大学派遣にともなう休職中の社員の処遇などの諸問題に対して、「派遣企業の会」を通して他社の対応事例などを参考に解決の糸口を見出すための情報交換を行うなど、社員派遣の阻害要因を少しずつ薄める取り組みを行っている。今後とも企業・大学の双方にとって価値のある社会人入学制度とすることで募集人員を充足できるよう取り組んでいく。

以上 (a) 項から (e) 項の 5 例をはじめとした学生募集（入試広報）活動を通じて、高校生とその保護者、高校や予備校、社会人学生を派遣する企業および学生の就職先企業等、本学のステークホルダーへの認知度向上を不断に図ってきた。広報活動を実施したことによる効果の検証は難しいが、追跡調査のできる媒体を活用し、出願・合格・入学の各割合や資料請求状況、および出願アンケート等の分析と検討を行い、PDCA サイクルを回しながら、広報計画の点検・改善案の策定や受験動向の把握等に反映させている。こうした取り組みを継続的に行い、地元を中心に全国からの志願者・入学者を迎えることで、先々においても安定的に定員を充足することができる学生募集基盤を構築していくこととしている。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

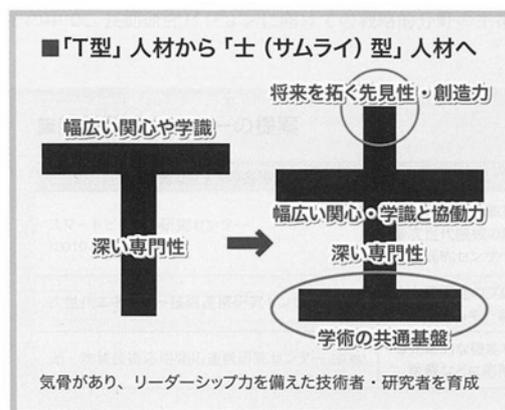
本学は、開学以来「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし」を建学の理念に掲げ、優れた実践的創造力と豊かな人間性を備え、次代の社会や産業を担うだけの意欲と能力を備えた未来のリーダーを育てることを目標として、時代に先駆け、社会のニーズを先取りする教育と研究を推進してきた。特に、工学の基礎の修得の上に、現代世界の主要産業の基盤となっている、機械システム分野、電子・情報分野、物質工学分野に関する専門教育を進め、学際的な研究・開発にも対応できる人材教育を行っている。

こうした方針は、2003年12月に制定したアドミッションポリシーにおいて、建学の精神や教育目標を示すとともに、本学が求める学生像を明示して、学生募集関係資料への記載や大学ホームページへの掲載等で学外に公開してきた。さらに、2010年2月には、カリキュラムポリシーおよびディプロマポリシーの制定も行い、2011年2月には、学則を改定して人材育成目的を、より明確にしている。

特に、学生の教育では、少人数制の塾的大学の利点を活かし、きめ細かな学生指導を行い、学術・技術の基礎・基盤の修得の上に、実践的創造力や国際性や人間力の涵養に重点を置いた教育を進めている。特に、2012年より、学部と大学院の教育体系を抜本的に見直し、「士（サムライ）型」人材の育成をめざす教育プログラム（資料14）を進めている。このプログラムでは、現代産業を支える機械システム、電子・情報、物質工学の三分野の何れかを専門として選ぶ前に、多くの学術・技術領域の共通基盤の修得に力を入れ、その上で専門分野を選ぶことにより、他の分野との対話が可能なハイブリッド工学教育を行っている。3年次以降は、主専攻分野を軸に学ぶが、副専攻分野の履修も推奨する制度を導入している。

さらに、新たなものを創り出す“創造力”の育成のために、1年次から、卒業に至るまで、各段階で創意工夫の力を鍛えるための多様な取組みを体系的に整理し、「創造性開発プログラム」を推進している（資料14）。

技術者には、他の専門分野との対話力に加え、人間や社会に関する理解力と異文化への対応力も必要なため、幅広い学識の涵養の取組みを行っている。例えば、学部1年次では、教養コア科目として哲学入門、経済学入門を選択必修科目とする等、教養科目の修得に努めさせている。また、寮生活を通じて、生身の人間との対話力や理解力を高めるとともに、協調性を養わせている。さらに“国際性の涵養”の観点では、海外英語研修に加えて、キャンパス内において異言語での対話を頻繁に行うことのできるインターナショナルコミュニケーションプラザ（iPlaza）や、国際交流ハウス（国際寮）を設け、様々な催し



を行うことで、日本人学生が、外国人の教員、博士研究員、留学生と日常的に英語で対話する機会を整備している。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本学は、工学部のみを持つ単科大学であり、現代社会を支える中核技術とそれに関わる産業の発展を担う優れた人材を育成するための良質な教育・研究を行うことを使命としている。前項で述べたように、本学では、そうした人材の育成のために、多くの工学分野にとっての共通基盤となる工学基礎に関する教育を行った上で、現代産業技術の中核的な分野ともなっている既述の三分野に関する専門教育を行っている。また隣接分野との間で行う学際的研究・開発のための能力育成も視野に入れている。また、実践的な創造力を磨くための様々な実験・実習や研究のカリキュラムが用意され、学生たちは、創意工夫の体験を通じ、創造への意欲や能力を培ってきている。本学のこうした教育の内容は、現代社会、特に、機械、電気・電子、情報、材料等の産業分野の人材需要の動向と整合するように、多くの企業の技術者や経営者からの助言も得て、細心の配慮をして選択・決定してきている。

さて、需要動向との整合性の客観的根拠を以下に示す。

(a) 就職決定率の状況

本学の卒業生の就職において、その決定率は100%を維持し、また、第一志望先への決定率が70%を超えており（資料15）、その就職の良さがマスコミでも取り上げられている。また、就職先もグローバルに展開する大企業から地域密着型企业まで幅が広い。

(b) 企業との連携によるカリキュラム等の検討

本学では、毎年、高校や高専を卒業後に大手企業で技術者として働いている社会人を社会人学生（定員20人）として受入れているが、彼らが履修する内容（カリキュラム等）は、派遣企業の会運営委員会の幹事社5社（住友電気工業、ダイキン工業、ダイハツ工業、豊田自動織機製作所、矢崎総業）他と、本学の教務委員長、事務局長、学生部で構成される「産学就業力向上委員会（年2回定期開催）」で意見交換され、企業が期待する内容との整合性が確認され、必要に応じて見直しを行っている。同委員会では、全寮制のあり方等、学生生活全般の話題についても意見交換を行っている。

(c) 企業派遣技術者による授業科目の設定

学部学生の履修科目の中で、「トヨタ生産方式概論」等、実習・講義他のいくつかは、企業から派遣された技術者が非常勤講師として担当しており、産業界との整合性に配慮された内容となっている。（資料16）

なお、社会的な人材需要への対応結果の例を挙げると、上にも触れたように、本学工学部における最近5年間の就職実績は（資料15）のとおりであり、就職決定率では、開学以来

100%を維持している（資料 17）。大学の多くが就職の堅調さを説明する時に用いる求人社数、求人票数等を見ると、学校推薦枠と自由応募だけで、ほぼ全員が就職内定を勝ち取れる状況にある。これは、開学当時から産学が一体となって、社会が必要とする理想的な教育を追求してきた姿勢に対する評価の現れとも言えよう。参考までに本学工学部から本学大学院工学研究科修士課程への直近5年間の進学率は45.0%であり、近年上昇する傾向にある。また、他大学の修士課程へ進学する者は7.5%（合計進学率52.5%）である（資料 18）。

以上述べてきたように、学部収容定員を増やす申請は、学力の高い受験者が多く受験する状況が恒常的に続いており（資料 5）、多くの企業からも、本学の卒業生をより多く採用したいとする社会的な期待に応えることにもある。

最後に、直近の3年間における本学卒業者の出身地を示す（資料 19）。昨今、問題となっている、地方から大都市圏大学への若者集中の点について、本学は圧倒的に小規模な大学であるため絶対数は少ないが、本学の場合は、東海地区の大学の中では他地域からの入学は少なくない方であると考えられる（資料 7）。また、特定県から多数の入学者を採るのではなく、全国（特に中部を含む西日本の広い地域）から学生を受け入れているため、大きな問題はないと考えている。参考になるが、本学学生の就職先企業の本社所在県を示す（資料 20）。東京を中心とした関東圏への流出が若干多く映るが、データは就職先企業の本社所在県での集計であるため、実際には、本学の卒業生の多くは、それらの企業の他県支店、研究所、事業所等で活躍している。さらに近年は、海外で勤務する卒業生も少なくない。

添 付 資 料 目 次

資料 No.	資 料 名 称	ページ
1	本学と名古屋大学工学部・名古屋工業大学との成績比較	P. 1
2	学部1年次入学試験の詳細	P. 2
3	高専第3年次編入学試験の詳細	P. 3
4	平成31(2019)年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向 (日本私立学校振興・共済事業団)	P. 4
5	センター試験(5教科7科目)得点率分布「過年度成績データ」	P. 5
6	本学2次選考受験者の国公立大学の併願状況	P. 6
7	本学入学者の地域割合	P. 7
8	資料請求者数、オープンキャンパスの参加者・満足度、理系女子進学相談会の参加者・満足度の推移	P. 8
9	2次選考受験者の有力大学との併願状況	P. 9
10-1	オープンキャンパスのアンケート	P. 10-11
10-2	来場者の感想・意見(オープンキャンパスのアンケート)	P. 12-14
11-1	受験生への出願アンケート	P. 15-16
11-2	回答抜粋(受験生への出願アンケート)	P. 17
12-1	入学生アンケート	P. 18
12-2	回答抜粋(入学生アンケート)	P. 19
13	サイエンス体験プログラムの実施状況	P. 20
14	「士(サムライ)型」人材の育成をめざす「創造性開発プログラム」の紹介パンフレット	P. 21
15	最近5年間の卒業・修了生の進路および博士学位授与状況について (本学の就職決定率100%と第一志望先への決定率が70%を超えていることを示す資料)	P. 22-26
16	企業から派遣された講師が担当する主な授業科目(令和元年度実績)	P. 27-28
17	最近5年間の求人件数の状況(実績)	P. 29
18	最近5年間の本学工学部学生の進路:人数および比率(卒業生実績)	P. 30
19	本学卒業(学部および修士)新規就職者の出身高校所在県	P. 31
20	本学学生(学部および修士)の最近3年における就職先本社所在県	P. 32

(資料1) 【本学と名古屋大学工学部・名古屋工業大学との成績比較】

【受験者の多くが競合する地元国立大学とのセンター試験：ボーダー得点率の比較(引用元データ:河合塾)】

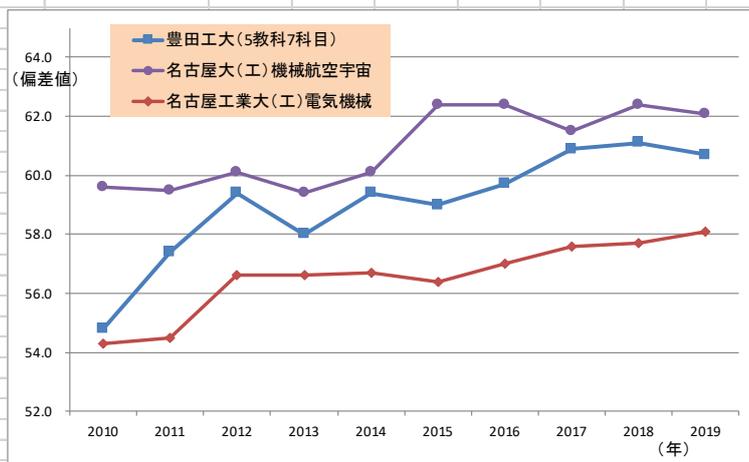
	2010	2011※2	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
豊田工大(5教科7科目)	68.2	75	80	74	78	77	78	80	80	81
豊田工大(3教科4科目)	70.7	78	80	78	83	76	77	80	82	81
名古屋大(工)機械航空宇宙	75.0	78	81	76	79	82	82	81	82	83
名古屋大(工)電気電子情報	74.2	78	80	75	77	78	80	80	80	81
名古屋工業大(工)電気機械 ※1	67.5	71	76	72	74	73	74	75	75	77

※1 名古屋工業大学は2015年まで機械工、2016年より学科改組で「電気機械」学科になる

※2 2011年以降、河合塾が公表するボーダーライン得点率の有効桁数に変更

【同上のセンター試験：ボーダー得点率偏差値の比較(引用元データ:河合塾)】

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
豊田工大(5教科7科目)	54.8	57.4	59.4	58.0	59.4	59.0	59.7	60.9	61.1	60.7
豊田工大(3教科4科目)	55.4	57.5	57.9	58.9	59.9	58.8	59.7	58.6	60.3	59.8
名古屋大(工)機械航空宇宙	59.6	59.5	60.1	59.4	60.1	62.4	62.4	61.5	62.4	62.1
名古屋大(工)電気電子情報	59.1	59.5	59.4	58.7	58.7	59.7	61.1	60.9	61.1	60.7
名古屋工業大(工)電気機械	54.3	54.5	56.6	56.6	56.7	56.4	57.0	57.6	57.7	58.1



(資料2)【学部1年次入学試験の詳細】

入試年度		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	平均	
一般選抜	募集人員	50						70				-	
	志願者(1次選考受験者) ※1	662	745	719	672	836	779	655	895	739	708	741	
	現役(内数)	446	525	463	410	494	499	395	574	456	438	470	
	割合	67.37%	70.46%	64.39%	61.01%	59.09%	64.05%	60.30%	64.13%	61.70%	61.86%	63.42%	
	既卒者(内数)	215	217	253	261	333	278	259	315	283	268	268.2	
	割合	32.47%	29.12%	35.18%	38.83%	39.83%	35.68%	39.54%	35.19%	38.29%	37.85%	36.19%	
	その他(内数)	1	3	3	1	9	2	1	6	0	2	2.8	
	1次合格者	350	361	350	390	400	421	391	381	450	451	394.5	
	2次受験者	307	330	321	339	333	366	355	356	415	397	351.9	
	最終合格者	305	305	280	314	329	354	332	355	410	385	336.9	
	入学者	60	89	81	94	81	93	83	68	78	77	80.4	
	現役(内数)	34	63	47	54	49	60	40	46	50	53	49.6	
	割合	56.66%	70.78%	58.02%	57.44%	60.49%	64.51%	48.19%	67.64%	64.10%	68.83%	61.69%	
	既卒者(内数)	26	26	34	40	32	33	43	22	28	24	30.8	
	割合	43.33%	29.21%	41.97%	42.55%	39.50%	35.48%	51.80%	32.35%	35.89%	31.16%	38.30%	
社会人特別選抜 ※2	募集人員	30						20				-	
	志願者	9	11	15	11	6	5	9	16	12	18	11.2	
	受験者	9	11	14	11	6	5	9	16	12	18	11.1	
	合格者	9	9	12	7	4	5	8	14	9	15	9.2	
	入学者	9	9	12	7	4	5	8	14	9	15	9.2	
専門高校特別選抜(公募制推薦)	募集人員	若干名											-
	志願者	1	2	1	0	0	0	1	3	6	7	2.1	
	受験者	1	1	0	0	0	0	1	2	4	7	1.6	
	合格者	0	1	0	0	0	0	1	2	3	3	1	
	入学者	0	1	0	0	0	0	1	2	3	2	0.9	
サイエンスラボ体験コース修了者推薦入試	募集人員	若干名			-							-	
	志願者	3	2	3	サイエンスラボ・体験コースの休止により受験対象者がいないため 2013年度入試より実施なし								
	受験者	3	2	3									
	合格者	1	2	3									
	入学者	1	0	3									
外国政府派遣留学生特別選抜	募集人員	若干名											-
	志願者	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0.1	
	受験者	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0.1	
	合格者	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0.1	
	入学者	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0.1	
合計 ※3	入学定員	80						90				-	
	志願者	675	760	738	683	842	784	666	914	757	733	755.2	
	受験者	675	759	736	683	842	784	666	913	755	733	754.6	
	合格者	315	317	295	321	333	359	342	371	422	403	347.8	
	入学者	70	99	96	101	85	98	93	84	90	94	91	
	入学定員超過率	0.87	1.23	1.20	1.26	1.06	1.22	1.16	0.93	1.00	1.04	-	
※1 本学の一般選抜は、1次選考をセンター試験で実施しているため「志願者=1次選考受験者」となる													
※2 社会人特別選抜の2・3年次編入学者は除く													
※3 合計数は「一般選抜」「社会人特別選抜」「専門高校特別選抜(公募制推薦)」「サイエンス・ラボ体験コース修了者対象推薦入試」「外国政府派遣留学生特別選抜」の合算値となる													
【参考】													
入試年度		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	平均	
大学入試センター試験		19.27%	19.71%	19.75%	18.78%	19.96%	17.65%	17.10%	17.20%	17.83%	18.49%	18.57%	
志願者の既卒者割合													

(資料3) 【高専第3年次編入学試験の詳細】

【地元・全国高専からの受験状況】							
入試年度			2015	2016	2017	2018	2019
豊田工業	(機械科)	志願者	3	4	4	7	3
		受験者	3	4	3	6	3
		合格者	3	3	3	6	3
		入学者	2	2	2	3	1
	(電気電子科)	志願者	1	1	5	5	8
		(情報科)	受験者	1	1	5	5
		合格者	1	1	5	5	8
		入学者	0	0	0	4	3
	合計	志願者	4	5	9	12	11
		受験者	4	5	8	11	11
		合格者	4	4	8	11	11
		入学者	2	2	2	7	4
福島工業、茨城工業		志願者	3	3	5	4	5
木更津工業、産業技術		受験者	3	3	2	2	4
石川工業、岐阜工業		合格者	3	3	2	2	4
沼津工業、呉工業の(総計)		入学者	3	2	2	0	3
合計	志願者	7	8	14	16	16	
	受験者	7	8	10	13	15	
	合格者	7	7	10	13	15	
	入学者	5	4	4	7	7	

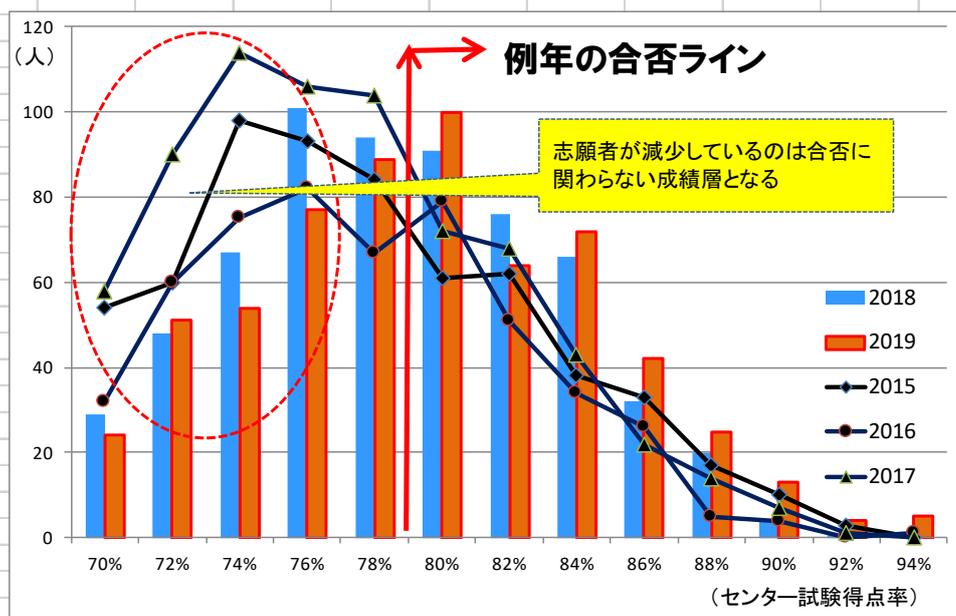
(資料4) 【平成31(2019)年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向
(日本私立学校振興・共済事業団)】

	入試年度	2015	2016	2017	2018	2019
1校当たりの入学定員の区分	学校数(人)	34	31	33	34	35
100名以下の大学の動向	志願倍率(倍)	2.47	2.35	2.43	2.13	2.25
	充足率(%)	94.91	98.09	94.44	92.60	94.97
学部系統別	学校数(人)	147	146	149	150	151
理・工学系	志願倍率(倍)	11.11	11.24	11.27	11.76	12.89
	充足率(%)	108.73	105.80	105.04	101.55	102.35
本学	志願倍率(倍)	9.80	8.32	10.15	8.41	8.14
	充足率(%)	122.50	116.25	93.33	100.00	104.44

(資料5) 【センター試験(5教科7科目) 得点率分布「過年度成績データ」】

【センター試験の成績上位層は増加傾向にあり、合否に関わらない成績下位層が減少している根拠データ】

	2015		2016		2017		2018		2019	
	単純	累積								
94%以上			1	1					5	5
93%				1			1	1	1	6
92%	3	3		1	1	1		1	3	9
91%	6	9	1	2	4	5		1	6	15
90%	4	13	3	5	3	8	4	5	7	22
89%	5	18	1	6	9	17	7	12	10	32
88%	12	30	4	10	5	22	13	25	15	47
87%	16	46	6	16	10	32	15	40	16	63
86%	17	63	20	36	12	44	17	57	26	89
85%	18	81	13	49	14	58	36	93	43	132
84%	20	101	21	70	29	87	30	123	29	161
83%	28	129	21	91	33	120	35	158	31	192
82%	34	163	30	121	35	155	41	199	33	225
81%	31	194	36	157	29	184	45	244	52	277
80%	30	224	43	200	43	227	46	290	48	325
79%	35	259	23	223	54	281	47	337	42	367
78%	49	308	44	267	50	331	47	384	47	414
77%	47	355	41	308	59	390	45	429	39	453
76%	46	401	41	349	47	437	56	485	38	491
75%	61	462	35	384	64	501	38	523	23	514
74%	37	499	40	424	50	551	29	552	31	545
73%	33	532	28	452	46	597	37	589	26	571
72%	27	559	32	484	44	641	11	600	25	596
71%	29	588	21	505	32	673	16	616	18	614
70%	25	613	11	516	26	699	13	629	6	620
69%	19	632	18	534	28	727	9	638	9	629
68%	10	642	10	544	22	749	14	652	8	637
67%	7	649	10	554	19	768	10	662	9	646
66%	14	663	14	568	9	777	6	668	7	653
65%	13	676	8	576	21	798	6	674	6	659
64%	6	682	5	581	8	806	4	678	3	662
63%	7	689	6	587	8	814	10	688	5	667
62%	9	698	6	593	6	820	4	692	3	670
61%	10	708	4	597	9	829	2	694	2	672
60%	6	714	4	601	8	837	8	702	2	674



(資料6) 【本学2次選考受験者の国公立大学の併願状況】

【2次選考受験者の大半が国公立大学を併願し、その半数以上が地元国立大学であることの根拠データ】						
入試年度		2015	2016	2017	2018	2019
1次選考受験者		779	655	895	739	708
2次選考受験者		366	355	356	415	397
国公立大併願		358	353	356	410	395
私立大のみ併願		8	2	0	5	2
国公立大併願率		97.81%	99.44%	100.00%	98.80%	99.50%
前期併願大	1位	名古屋大 (162人)	名古屋大 (131人)	名古屋大 (161人)	名古屋大 (164人)	名古屋大 (177人)
	2位	名古屋工業大 (60人)	名古屋工業大 (67人)	名古屋工業大 (52人)	名古屋工業大 (62人)	名古屋工業大 (43人)
	3位	大阪大 (22人)	九州大 (21人)	大阪大 (20人)	大阪大 (36人)	大阪大 (21人)
	4位	九州大 (16人)	大阪大 (18人)	九州大 (19人)	北海道大 (21人)	九州大 (20人)
	5位	京都大 (15人)	神戸大 (15人)	東北大 (14人)	九州大 (19人)	東北大 (19人)
	他	東京大 (5人)	東京大 (8人)	東京大 (7人)	東京大 (4人)	東京大 (10人)

(資料7) 【本学入学者の地域割合】

【愛知県、岐阜県、三重県の3県以外からの入学者が3割を超える根拠データ】

入試年度	2015	2016	2017	2018	2019
愛知県、岐阜県、三重県	72	50	40	44	52
(割合)	77.42%	60.24%	58.82%	56.41%	67.53%
上記以外の県	21	33	28	34	25
(割合)	22.58%	39.76%	41.18%	43.59%	32.47%
一般入試の入学者	93	83	68	78	77

(資料8) 【資料請求者数, オープンキャンパスの参加者・満足度, 理系女子進学相談会の参加者・満足度の推移)】

実施年度	2010	～	2014	2015	2016	2017	2018
資料請求者	4,287		7,246	7,145	8,425	9,599	11,307
(内訳) 愛知、岐阜、三重	2,460		4,119	4,175	4,863	5,519	7,220
静岡、長野、新潟より以東	873		1,386	1,396	1,537	1,973	2,031
北陸3県、滋賀より以西	953		1,740	1,574	2,024	2,107	2,056
その他、(海外、不明)	1		1	0	1	0	0
オープンキャンパスの参加者 (年計)	369		719	652	710	733	955
オープンキャンパスの満足度 (年計) (7段階評価)	－		5.78	6.01	6.03	6.21	6.10
理系女子進学相談会の参加者	－		30	53	41	36	34
理系女子進学相談会の満足度	－		－	－	6.33	6.23	6.47

(資料9) 【2次選考受験者の有力大学との併願状況】

入試年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
2次試験受験者	339	333	366	355	356	415	397
北海道大	7	4	10	12	6	21	18
東北大	3	7	8	13	14	14	19
東京大	3	0	5	8	7	4	10
東京工業大	10	10	2	9	9	11	9
名古屋大	111	143	163	131	161	164	177
京都大	13	12	15	8	8	11	16
大阪大	15	15	22	18	20	36	21
神戸大	8	9	6	15	10	11	7
九州大	7	12	16	21	19	19	20
合計	177	212	247	235	254	291	297
割合	52.2%	63.7%	67.5%	66.2%	71.3%	70.1%	74.8%

(資料 10-1) 【オープンキャンパスのアンケート】

〔参加日〕

() 7月 14 日 (土) () 7月 15 日 (日)

〔回答者についてお教え下さい〕

() 生徒本人(既卒/高校____年/中学____年/高専____年/その他)

() 同伴者

() その他 (学校教職員/その他)

〔オープンキャンパス全体の満足度を教えてください〕

7 ← 6 5 4 3 2 1 → 要改善
満足

1. オープンキャンパスを知ったきっかけは? (該当する 1 つに○)

- A. チラシまたはハガキを受け取った。
- B. 進学情報誌の告知を見た。
- C. 高校の(進路指導室の掲示等/担任の先生/進路指導部の先生)から。
→高校名[]
- D. 予備校または塾の(進路指導室の掲示等/進路指導部の先生〔チューター等〕)から。
→予備校または塾名[]
- E. ホームページを見た。
- F. 友人・知人から聞いた。
- G. その他 ()

2. 大学・入試結果説明はいかがでしたか? (ご参加の方のみ)

- A. 大変良い B. 良い C. どちらともいえない D.あまり理解できなかった

【理由】

3. 「ラボツアー」はいかがでしたか? (ご参加の方のみ)

() 機械システム () 電子情報 () 物質工学

- A. 大変良い B. 良い C. どちらともいえない D.あまり理解できなかった

【理由】

4. 体験授業についてお教え下さい。(ご参加の方のみ)

参加した講座	7/14(土)	参加した講座	7/15(日)
	流れの世界を感じ、知り、理解する		金属を削る？
	小さなセンサが拓く世界		設計工学入門
	もっと引き出せ！太陽の力！		DVDにキズをつけてみよう
	光ファイバ通信のしくみ		ヒトの身体運動の計測と解析
	環境・エネルギー問題における化学		液体の形はどのように決まるのか
	超伝導の革命		熱から電気を生み出す材料

【体験授業の感想】

- A. 大変良い B. 良い C. どちらともいえない D.あまり理解できなかった

【理由】

5. 保護者懇談会はいかがでしたか？(ご参加の方のみ)

() キャリアサポート編 () 全寮制教育編

- A. 大変良い B. 良い C. どちらともいえない D.あまり理解できなかった

【理由】

6. キャンパスツアー・相談コーナーの印象等を自由にご記入ください。(ご参加の方のみ)

7. 本日の感想等を自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。3F総合受付へご提出ください

【資料 10-2】【来場者の感想・意見（オープンキャンパスのアンケート）】

< キャンパスツアー・相談コーナー >

- ・ 学生さんたちがとても聡明でいろいろな質問に明確に応えてくれたのが印象的でした。(保)
- ・ 学生さんの対応が良く経験など話してくださり参考になりました。(保)
- ・ 学生さんが誠実な生活を送られている姿がとても印象的でした。
- ・ 相談コーナーの学生さんたちがとても落ち着いていてこういう青年に育ってほしいと感じた。とても親身に相談に乗ってくれた。(保)
- ・ 生徒の案内も丁寧に本音で説明していただき有難い。(保)
- ・ 細かい質問にも丁寧に答えていただき、学生さんの質の高さを感じた。(保)

< 大学・入試説明会 >

- ・ 内容の濃い授業体系であることが分かりました。寮生活を是非経験させたいです。(保)
- ・ 豊田工大の寮や教えている内容、入試説明の隅から隅まで行き届いていた。(受)
- ・ 他大学との違いが分かり、今後の進路の参考にとっても役立ちました。(受)
- ・ 入学後に何が待っているのかよく分かる説明会でした。入試に向けてすべきアドバイスももらえて良かったです。(保)
- ・ とても分かりやすくご説明いただきありがとうございました。まだ高 1 のためよく分からなかった息子も、こんな風に学びたいと何か感じるものがあったようです。ありがとうございました。(保)

< 体験授業 >

- ・ 「設計工学入門」具体例を交えた設計のフローチャートについてが一つの講座の中にコンパクトにまとめられていたのが良かった(受)
- ・ 「熱から電気を生み出す材料」実験もあって分かりやすく楽しかった。身近なことにも触れながらだったので分かりやすかった。(受)
- ・ 「流れ世界を感じ、知り、理解する」面白そうだったので急に参加したのですが、とても良かったです！普段触れることのない流体力学について身近なことも含めて理解することができました。(受)
- ・ 「環境・エネルギー問題における化学」水素社会について、目を向けたこのがない資源について、とても分かりやすく話してくださり興味がわいた。(保)
- ・ 「超伝導の革命」リニアモーターカーに興味があるので、実際の摩擦がない状態にする実験が面白かったです。(受)
- ・ 「液体の形はどのように決まるのか」色々な実験を通して対比できるようになっていた。拡大してスクリーンに映すことで見やすかった。まとめがあり最終的な考え方が身に付いた。

<懇談会：キャリア支援編>

- ・寮での生活、自炊が全て将来就職して社会人として歩むことに繋がっていき、内容が濃い他の学校にはない教育にとっても感銘を受けた。(保)
- ・子どもは社会で人として生きていく力を心を強く育てなければならない。親としても成長させられる思いで聴かせていただきました。とても頼もしい学生支援センターであることが分かりました。(保)

<懇談会：全寮生活編>

- ・システムチックに仕組みが作られていて、1年間預けたい、体験させたいと思いました。(保)
- ・入寮することで主体性や創造力、チームワークなど学校だけでは学ぶことができないたくさんの方の力をつけられると思いました。私自身も学生時代には寮生活で親のありがたさや友人と協力することを学んだので、息子にもぜひ体験してほしいです。(保)

<ラボツアー>

- ・説明が分かりやすく、実際に見せてもらえてすごく楽しかったです。(受)
- ・実際にどのような研究をしているのか、機械はどういうものがあるのかなど知ることができ、私もやってみたい！という気持ちが強まりました。(受)
- ・非常に専門的なことを学べると感じた。特に知能情報メディアが良かったです。(受)
- ・三カ所回ったがとても教授が優しく、分かりやすく教えてくれた。(受)

<本日の感想>

- ・大学がどういう風に学生を育てているのかやその後社会に出るにあたって必要な能力とは何か、等良く理解できました。(保)
- ・職員、学生の対応がとても良く好印象でした。建物、施設が想像以上にきれいで充実していることが分かって、参加して良かった。(保)
- ・先輩たちがとても良い人たちで入学したい気持ちも受験へのモチベーションもあがりました。(受)
- ・他大学と比べて学校と学生の距離が近いように思い、息子がこの大学を第一志望にしている理由が理解できました。(保)
- ・大学が一生懸命生徒を教育しようという気持ちが伝わってきました。良い大学だなあと感じました。(保)
- ・大学について深く知ることができました。英語の重要性も理解できて、今後の高校生活に活かしていきたいです。(受)
- ・分かりやすくいろいろなことを説明してもらえて充実していました。他の大学のOCにはないツアーとかがたくさんあって、1日中体験できてとても良かったです。(受)

・校舎が広々として清潔で大変良い環境と思いました。学食もお弁当美味しかったです。

(保)

・本日はありがとうございました。遠方から来た価値がありました。どの説明会も分かりやすくテンポがあり、引き込まれていくほど上手でした。学校職員の方もすべてご親切でした。益々こちらの大学に魅力を感じました。(保)

<今後の課題>

・廊下にも空調が欲しい。(受)

・教室が少し冷えすぎていると感じました。(保)

・タイムテーブルは早めに HP に出していただければ事前に当日の行動なのを決めるのに役に立つと思います。(保)

・整理券のシステムが分かりづらかった。(受)

・一日では全てのプログラムには出られず、残念でした。(保)

(資料 11-1) 【受験生への出願アンケート】

2019 年度(平成 31 年度) 豊田工業大学についてのアンケート

このアンケートは、合否判定とは関係ありません。

率直にご回答のうえ、出願書類に同封して郵送してください。

【アンケートの目的】

本学ではできるだけ多くの方々に“豊田工業大学”を知っていただくために、さまざまな広報活動を行っています。次年度以降の受験生の皆さんに、より効果的に情報をお知らせするため、今回受験の皆さんが『どのように豊田工大を知ったのか』、また、皆さんからみた『豊田工大の魅力』等を把握することを目的としています。

【該当する項目の番号を○で囲み、□欄には✓印を付けてください】

Q1. 初めて本学を知ったキッカケは？ (該当する 1 項目に○)

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. 受験雑誌 (DM 等含む) | 5. ホームページ (インターネット) |
| 2. 友人 | 6. 高校・予備校 (担任・進路指導室) |
| 3. 家族 | 7. その他 () |
| 4. 知人等 | |

Q2. 初めて本学を知った時期は？ (該当する 1 項目に○)

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| 1. 高校入学以前 | 3. 高校 2 年 | 5. 高校卒業後 |
| 2. 高校 1 年 | 4. 高校 3 年 | |

Q3. 次の本学の紹介記事・広告のうち、見たことがあるもの全てに○をつけてください。

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------------|
| 1. リクルート『進学事典』 | 12. アクセスコーポレーション『進学ラボ』(Web) |
| 2. リクルート『リクナビ進学』(Web) | 13. 大学通信『君はどの大学を選ぶべきか』 |
| 3. 進研アド『大学発見ナビ』 | 14. 駿台予備学校『資料請求ガイド』 |
| 4. 進研アド『マナビジョン』(Web) | 15. 駿台予備学校『ADVANCE』 |
| 5. 河合塾『栄冠めざして SPECIAL』 | 16. フロムページ『夢ナビ』(紙、Web) |
| 6. 河合塾『Guideline』 | 17. テレメール |
| 7. マイナビ『学び・学校発見ブック』 | 18. 本学ホームページ |
| 8. マイナビ『マイナビ進学』(Web) | 19. 新聞 (□中日□朝日□毎日□読売
□日経□日刊工業□地方紙) |
| 9. ディスコ『キャリアタス進学』(Web) | 20. Wing Box(高校設置の資料請求ハガキ) |
| 10. JS コーポレーション『日本の学校』(Web) | 21. その他 () |
| 11. 旺文社『パスナビ』(Web) | |

Q4. 本学の募集要項はどのように入手しましたか？ (該当する 1 項目に○)

- | | |
|--------------------------------|--------------------|
| 1. 受験雑誌等により請求し、大学から届いた。 | 4. 高校・予備校の進路指導室 |
| 2. 大学に直接請求 (電話/来学/HP/Eメール) した。 | 5. オープンキャンパス・大学説明会 |
| 3. テレメール (郵便局経由含む) | 6. その他 () |

Q5. 本学のオープンキャンパスに参加したことがありますか？

- | | |
|-------------|--------|
| 1. はい () 月 | 2. いいえ |
|-------------|--------|

Q6. 大学受験に向け通われている (いた) 塾・予備校があればお教えてください。

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. 通っていない | 2. 通っていた () |
|-----------|--------------|

Q7. 次の項目は志望動機とどれくらい関係がありますか？（各項目の関係度1つに○）

項目	関係度		
	とても関係ある	少し関係ある	あまり関係ない
1. 少人数教育(教員数と学生数比率は1:10)	とても関係ある	少し関係ある	あまり関係ない
2. 分野の枠を超えたハイブリッド工学教育	とても関係ある	少し関係ある	あまり関係ない
3. カリキュラムの充実	とても関係ある	少し関係ある	あまり関係ない
4. 国内外一流企業でのインターンシップ	とても関係ある	少し関係ある	あまり関係ない
5. 学部・修士6年一貫教育の導入	とても関係ある	少し関係ある	あまり関係ない
6. 教育・研究設備の充実	とても関係ある	少し関係ある	あまり関係ない
7. 教授陣の充実	とても関係ある	少し関係ある	あまり関係ない
8. 選択の幅の広い学問分野	とても関係ある	少し関係ある	あまり関係ない
9. 先端的な研究	とても関係ある	少し関係ある	あまり関係ない
10. 大学院の充実	とても関係ある	少し関係ある	あまり関係ない
11. 海外特別演習等国際化に対応した教育	とても関係ある	少し関係ある	あまり関係ない
12. 入試の難易度	とても関係ある	少し関係ある	あまり関係ない
13. 立地条件	とても関係ある	少し関係ある	あまり関係ない
14. 就職の実績	とても関係ある	少し関係ある	あまり関係ない
15. 安価な授業料	とても関係ある	少し関係ある	あまり関係ない
16. 奨学金制度の充実	とても関係ある	少し関係ある	あまり関係ない
17. 寮の完備	とても関係ある	少し関係ある	あまり関係ない
18. 社会人学生と送る学生生活	とても関係ある	少し関係ある	あまり関係ない
19. トヨタ自動車が設立	とても関係ある	少し関係ある	あまり関係ない

Q8. 本学への受験を周囲の人から勧められましたか？ また、その影響は？

1. 特に誰からも受験を勧められていない (Q9へ)

2. 受験を勧められた (該当する項目に○・複数選択可) ⇒ 受験動機への影響

- | | | |
|--------------|--|----------------|
| (1) 友人から | 
[影響度に○] | [影響大・自分の意思大] |
| (2) 親・兄弟から | | [影響大・自分の意思大] |
| (3) その他の知人から | | [影響大・自分の意思大] |
| (4) 高校・予備校から | | [影響大・自分の意思大] |

Q9. 今年受験する予定の大学名（本学を含む）とその主な理由を志望順位順に記入してください。

志望順位	区分	大学名	主な理由（魅力）
1位	国公立・私立	大学	
2位	国公立・私立	大学	
3位	国公立・私立	大学	
4位	国公立・私立	大学	

(資料 11-2) 【回答抜粋 (受験生への出願アンケート)】

【初めて本学を知ったキッカケ】

入試年度	2017年度入試		2018年度入試		2019年度入試	
	志願者計		志願者計		志願者計	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
家族	207	25.0%	233	34.1%	49	7.4%
高校・予備校	173	20.9%	173	25.3%	76	11.4%
友人	84	10.1%	105	15.4%	235	35.4%
受験雑誌(DM等含む)	40	4.8%	41	6.0%	28	4.2%
HP(インターネット)	69	8.3%	84	12.3%	78	11.7%
知人等	34	4.1%	35	5.1%	185	27.9%
その他	20	2.4%	12	1.8%	13	2.0%
アンケート合計数	829		684		664	

【初めて本学を知った時期】

入試年度	2017年度入試		2018年度入試		2019年度入試	
	志願者		志願者		志願者	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
高校入学以前	36	4.3%	38	5.6%	35	18.9%
高校1年生	83	10.0%	72	10.5%	65	35.1%
高校2年生	183	22.1%	163	23.8%	177	95.7%
高校3年生	393	47.4%	321	46.9%	302	163.2%
高校卒業後	125	15.1%	89	13.0%	85	45.9%
アンケート合計数	829		684		664	

【次の項目は志望動機とどれぐらい関係がありますか】

※「指数」…「とても関係がある」に2点、「少し関係がある」に1点、「あまり関係ない」に0点を付与し、加重平均したもの

項目	2017年度入試					2018年度入試					2019年度入試				
	志願者					志願者					志願者				
	とても関係がある	%	少し関係がある	あまり関係ない	指数※	とても関係がある	%	少し関係がある	あまり関係ない	指数※	とても関係がある	%	少し関係がある	あまり関係ない	指数※
少人数教育	342	41.3%	309	170	1.21	321	46.9%	238	118	1.30	306	46.1%	242	111	1.30
ハイブリッド工学教育	495	59.7%	263	60	1.53	452	66.1%	172	50	1.60	441	66.4%	174	42	1.61
カリキュラムの充実	473	57.1%	288	59	1.50	435	63.6%	210	32	1.60	408	61.4%	215	33	1.57
インターンシップ	513	61.9%	208	98	1.51	404	59.1%	182	91	1.46	405	61.0%	188	65	1.52
学部・修士6年一貫教育の導入	218	26.3%	386	214	1.00	198	28.9%	315	162	1.05	206	31.0%	296	155	1.08
教育・研究設備の充実	613	73.9%	182	25	1.72	530	77.5%	125	22	1.75	497	74.8%	143	18	1.73
教授陣の充実	355	42.8%	355	110	1.30	314	45.9%	274	88	1.33	296	44.6%	276	84	1.32
選択幅の広い学問分野	489	59.0%	258	70	1.51	434	63.5%	200	43	1.58	444	66.9%	184	28	1.63
先端的な研究	638	77.0%	156	27	1.74	539	78.8%	123	14	1.78	526	79.2%	112	20	1.77
大学院の充実	245	29.6%	391	182	1.08	242	35.4%	316	118	1.18	254	38.3%	291	113	1.21
海外特別演習等国際化	322	38.8%	308	188	1.16	250	36.5%	272	151	1.15	236	35.5%	282	137	1.15
入試の難易度	241	29.1%	372	204	1.05	188	27.5%	312	175	1.02	183	27.6%	304	170	1.02
立地条件	177	21.4%	294	350	0.79	134	19.6%	223	317	0.73	120	18.1%	221	315	0.70
就職の実績	691	83.4%	97	32	1.80	556	81.3%	92	29	1.78	522	78.6%	107	28	1.75
安価な授業料	707	85.3%	89	26	1.83	563	82.3%	89	25	1.79	545	82.1%	97	17	1.80
奨学金制度の充実	280	33.8%	274	264	1.02	213	31.1%	223	241	0.96	200	30.1%	235	223	0.97
寮の完備	298	35.9%	271	252	1.06	256	37.4%	214	207	1.07	220	33.1%	244	191	1.04
社会人学生と送る学生生活	153	18.5%	319	348	0.76	142	20.8%	252	282	0.79	116	17.5%	252	287	0.74
トヨタ自動車が設立	422	50.9%	285	112	1.38	334	48.8%	237	105	1.34	311	46.8%	249	96	1.33
アンケート合計数	829					684					664				

(資料 12-1) 【入学生アンケート】

2019 年 4 月 1 日
広報・入試室 入試グループ

2019 年度入学生アンケート

この度のご入学、誠にありがとうございます。新入生の皆様に本学入学に関するアンケートのご協力をお願いいたします。なお、この結果は入学生ご本人を特定するものではなく、あくまで受験傾向を知る目的のみに利用させていただくものです。

※あてはまる番号に○を記してください

- (1) 豊田工大は受験した大学の中で第○志望でしたか
①第1志望 ②第2志望 ③第3志望 ④第4志望 ⑤第5志望以下

- (2) 豊田工大への入学を決めた時期
①本学合格通知が届いた時点
②国公立大の前期合格発表の前
③国公立大の前期合格発表の結果を見て
④国公立大の後期(中期)合格発表の結果を見て
⑤他の私大の入学手続き〆切りの前

- (3) 受験した他大学
【国公立大】

〈前期〉 _____ 大学 〈後期〉 _____ 大学 〈中期〉 _____ 大学

- 【私立大】 ※受験された主な大学

_____ 大学 _____ 大学 _____ 大学 _____ 大学

- (4) 豊田工大への入学理由

- ①第一志望だった
②国公立大の前期試験に合格したが、豊田工大に入学しようと思った
③国公立大の前期試験が不合格(もともと前期試験しか受験する予定はなかった)
④国公立大の前期試験が不合格。後期試験は受験する気がなくなった
⑤国公立大の後期(中期)試験に合格したが、豊田工大に入学しようと思った
⑥国公立大の後期(中期)試験が不合格だった
⑦私立大のみ受験。合格した他の私立大よりは豊田工大に入学しようと思った
⑧国公立大・私立大を含めて、豊田工大しか合格しなかった

- (5) 豊田工大への受験・入学にあたり影響を受けた人(最もあてはまるもの1つに○をつけて下さい)

- 【受験】 ①保護者 ②兄弟 ③友人・知人・先輩 ④高校・予備校の先生 ⑤特にいない
【入学】 ①保護者 ②兄弟 ③友人・知人・先輩 ④高校・予備校の先生 ⑤特にいない

- (6) 豊田工大を受験した理由(あてはまるもの全てに○をつけて下さい)

- ①成績レベルが合っている ②学びたい学問分野だったから ③教育・カリキュラムが充実
④研究環境が充実 ⑤産学一体の大学だから ⑥実験・実習・インターンシップなどが充実
⑦学費が安い ⑧就職実績が優れている ⑨全寮制が魅力 ⑩トヨタ自動車㈱が設立した大学
⑪ _____ の _____ 他
(_____)

- (7) 豊田工大のオープンキャンパスに参加したことがある → ある() or ない()
以上

(資料 12-2) 【回答抜粋 (入学生アンケート)】

【豊田工大は受験した大学の中で第○志望でしたか】

	2015	2016	2017	2018	2019
①第1志望	12(13%)	10(12%)	13(19%)	13(17%)	6(8%)
②第2志望	54(58%)	48(58%)	42(62%)	46(59%)	50(65%)
③第3志望	23(25%)	20(24%)	13(19%)	11(14%)	14(18%)
④第4志望	4(4%)	3(4%)	-	5(6%)	5(6%)
⑤第5志望以下	0(0%)	2(2%)	-	3(4%)	2(3%)
	93	83	68	78	77

【豊田工大へ入学を決めた時期】

	2015	2016	2017	2018	2019
①合格通知が届いた時点	6(6%)	7(8%)	14(21%)	15(19%)	7(9%)
②国公立大の前期合格発表の前	5(5%)	4(5%)	2(3%)	1(1%)	4(5%)
③国公立大の前期合格発表の結果を見て	48(52%)	40(48%)	36(53%)	39(50%)	37(48%)
④国公立大の後期(中期)合格発表の結果を見て	32(34%)	29(35%)	16(24%)	22(28%)	29(38%)
⑤他の私大の入学手続き〆切りの前	2(2%)	3(4%)	-	1(1%)	-
	93	83	68	78	77

【豊田工大への入学理由】

	2015	2016	2017	2018	2019
①第一志望だった	7(8%)	8(10%)	9(13%)	11(14%)	3(4%)
②国公立大の前期試験に合格したが、豊田工大に入学しようと思った	6(6%)	5(6%)	3(4%)	3(4%)	3(4%)
③国公立大の前期試験が不合格だった(もともと前期試験しか受験する予定はなかった)	14(15%)	11(13%)	14(21%)	10(13%)	12(16%)
④国公立大の前期試験が不合格。後期試験は受験する気がなくなった	26(28%)	23(28%)	17(25%)	22(28%)	21(27%)
⑤国公立大の後期(中期)試験に合格したが、豊田工大に入学しようと思った	13(14%)	12(14%)	9(13%)	15(19%)	14(18%)
⑥国公立大の後期(中期)試験が不合格だった	19(20%)	20(24%)	11(16%)	13(17%)	22(29%)
⑦私立大のみ受験。合格した他の私立大よりは豊田工大に入学しようと思った	0(0%)	0(0%)	1(1%)	2(3%)	1(1%)
⑧国公立大・私立大を含めて、豊田工大しか合格しなかった	8(9%)	4(5%)	4(6%)	2(3%)	1(1%)
	93	83	68	78	77

【豊田工大への受験・入学を決めるにあたり影響を受けた人】

【受験】	2015	2016	2017	2018	2019
①保護者	36(39%)	26(31%)	28(41%)	27(35%)	24(31%)
②兄弟	5(5%)	2(2%)	3(4%)	3(4%)	3(4%)
③友人・知人・先輩	11(12%)	7(8%)	18(26%)	16(21%)	12(16%)
④高校・予備校の先生	27(29%)	23(28%)	10(15%)	12(15%)	21(27%)
⑤特になし	14(15%)	25(30%)	9(13%)	20(26%)	17(22%)
	93	83	68	78	77

【入学】	2015	2016	2017	2018	2019
①保護者	37(40%)	25(30%)	34(50%)	29(37%)	27(35%)
②兄弟	2(2%)	4(5%)	1(1%)	-	1(1%)
③友人・知人・先輩	6(6%)	5(6%)	5(7%)	4(5%)	6(8%)
④高校・予備校の先生	7(8%)	7(8%)	-	1(1%)	8(10%)
⑤特になし	41(44%)	42(51%)	28(41%)	44(56%)	35(45%)
	93	83	68	78	77

(資料 13) 【サイエンス体験プログラムの実施状況】

実施年度	2014	2015	2016	2017	2018
校数	13	14	14	15	16
講座数	27	31	32	33	34
参加人数	542	579	506	513	474

※2014・2015年において、講座数が少ない割に参加人数が多いのは、大学での実験ではなく
高校への出張講義（聴講形式）の講座が多いことによる人数の増加が要因

【スーパーサイエンスハイスクール（2校）、サイエンスパートナーシップ（3校）、
理数科（1校）の6校集計による受験状況推移】

	入試年度	2015	2016	2017	2018	2019
6校集計	志願者（*1）	59	42	100	66	80
	合格者（*2）	26	21	40	38	56
	入学者（*3）	9	6	9	5	14
一般入試	志願者（*4）	779	655	895	739	708
	合格者（*5）	354	332	355	410	385
	入学者（*6）	93	83	68	78	77
割合	*1/*4	7.6%	6.4%	11.2%	8.9%	11.3%
	*2/*5	7.3%	6.3%	11.3%	9.3%	14.5%
	*3/*6	9.7%	7.2%	13.2%	6.4%	18.2%

(資料 14) 【「士 (サムライ) 型」人材の育成をめざす「創造性開発プログラム」
の紹介パンフレット】

* 「士 (サムライ) 型」人材育成カリキュラム

中核メニュー **創造性開発プログラム** のパンフレットを添付。



(資料 15) 【最近 5 年間の卒業・修了生の進路および博士学位授与状況について】

本学の就職決定率 100%と第一志望先への決定率が 70%を超えていることを示す資料

2018年度(平成30年度)		2019年3月26日現在						
卒業・修了予定者の進路および博士学位授与状況について								
<まとめ> ・本年度も就職決定率[就職者数÷就職希望者数]は100%達成(開学以来100%) ・第一志望就職率・ 78%								
1. 卒業・修了予定者の進路(就職は内定状況) ()は昨年実績人数								
	学部		修士課程			博士後期課程		
	社会人	一般	社会人	一般	留学生	社会人	一般	留学生
企業復帰	4 (4)		3 (2)					
就職		23 (39)		36 (34)			1 (2)	1 (0)
進学		57 (45)		2 (0)				
その他 (未定・帰国等)		0 (1)			6 (4)			
卒業・修了者	4 (4)	80 (85)	3 (2)	38 (34)	6 (4)	0 (0)	1 (2)	1 (0)
満了者						1 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	4 (4)	80 (85)	3 (2)	38 (34)	6 (4)	1 (0)	1 (2)	1 (0)
		84 (89)		47 (40)			3 (2)	
※学部:卒業者のうち2名(一般・就職1、本学進学1)は9月に卒業済 ※修士:修了者のうち7名(博士進学1、就職1、DD5)は9月に修了済								
2. 一般学生の就職先企業 ()は人数								
学部	23 名		修士 36 名		3. 一般学生の就職先企業 累積上位 【学部・修士 1995年～】			
企業名	アイシンAW	(1)	TIS	(1)	トヨタ自動車㈱	(88)		
	アイシン精機	(1)	ZMP	(1)	アイシン精機㈱	(57)		
	ジェイテクト	(3)	アイシンAW	(3)	㈱デンソー	(57)		
	ダイキン工業	(1)	アイシン精機	(1)	㈱豊田自動織機	(54)		
	東海理化	(3)	小糸製作所	(1)	アイシン・エイ・ダブリュ㈱	(49)		
	東海旅客鉄道(JR東海)	(1)	ジェイテクト	(1)	矢崎総業㈱	(37)		
	東芝メモリ	(1)	ジャストシステム	(1)	本田技研工業㈱	(36)		
	豊田合成	(1)	住友電気工業	(2)	三菱電機㈱	(29)		
	トヨタコミュニケーションシステム	(1)	大同特殊鋼	(1)	㈱ジェイテクト	(25)		
	トヨタ自動車	(2)	デンソー	(5)	豊田合成㈱	(24)		
	トヨタ自動車九州	(2)	東芝メモリ	(1)	トヨタ紡織㈱	(24)		
	トヨタ紡織	(2)	トヨタ自動車	(4)	㈱東海理化	(23)		
	三菱自動車工業	(1)	トヨタ自動車九州	(1)	トヨタ車体㈱	(20)		
	三菱電機(カトロクスエンジン)	(1)	豊田自動織機	(2)	㈱アドヴィックス	(15)		
	山口フィナンシャルグループ	(1)	トヨタ車体	(1)	ソニーグローバルM&O㈱	(15)		
	名古屋役所	(1)	トヨタ紡織	(1)	愛三工業㈱	(13)		
			日本放送協会(NHK)	(1)	ダイハツ工業㈱	(13)		
		浜松トノクス㈱	(1)	パナソニック㈱	(13)			
		日立産業制御ソリューションズ	(1)	フタバ産業㈱	(13)			
		三菱電機	(3)	㈱トヨタコミュニケーションシステム	(13)			
		三菱マテリアル	(1)	ダイキン工業㈱	(12)			
		愛知県警察本部	(1)	住友電気工業㈱	(12)			
		ゲーム関連会社	(1)	キヤノン㈱	(11)			
				日野自動車㈱	(11)			
				㈱協豊製作所	(10)			
				小島プレス工業㈱	(10)			
				スズキ㈱	(10)			
				トヨタテクニカルディベロップメント㈱	(10)			
				日本精工㈱	(9)			
4. 社会人学生の企業復帰先 ()は人数								
学部	4 名		修士 3 名		5. 他大学進学3名			
企業名	トヨタ自動車㈱	(4)	曙ブレーキ工業㈱	(1)	東京大学大学院	1		
			日本精工	(1)	東京工業大学大学院	1		
			矢崎総業㈱	(1)	名古屋大学大学院	1		
6. 博士後期課程の修了(学位授与)及び満了状況								
修了(学位授与)	2 名							
満了	1 名							
合計	3 名							
7. 学部の副専攻分野 認定状況								
所属分野の内訳	2分野認定 13 名			1分野認定 36 名				
	機械システム	2 名	電子情報	15 名				
	電子情報	4 名	物質工学	12 名				
	物質工学	7 名	物質工学	9 名				

卒業・修了予定者の進路および博士学位授与状況について

<まとめ> ・本年度も就職決定率[就職者数÷就職希望者数]は100%達成(開学以来100%)
 ・第一志望就職率・ 75%

1. 卒業・修了予定者の進路(就職は内定状況)

()は昨年実績人数

	学部		修士課程			博士後期課程		
	社会人	一般	社会人	一般	留学生	社会人	一般	留学生
企業復帰	4 (8)		2 (1)			0 (0)	0 (0)	
就職		39 (30)		34 (37)			2 (2)	0 (3)
進学		45 (48)						
その他 (未定・帰国等)		1 (1)			4 (0)			0 (1)
卒業・修了者	4 (8)	85 (79)	2 (1)	34 (37)	4 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (4)
満了者						0 (0)	0 (1)	()
合計	4 (8)	85 (79)	2 (1)	34 (37)	4 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (4)
	89 (87)		40 (38)			2 (6)		

※学部:卒業者のうち1名(一般・就職)は3月に卒業済 ※修士:修了者のうち3名(留学生)は3月に修了済(帰国) ※博士は下村憲一(2015満了退学)含む

2. 一般学生の就職先企業

()は人数

学部	39 名	修士	34 名
アイシン精機㈱	(3)	トヨタ自動車㈱	(5)
豊田合成㈱	(3)	㈱デンソー	(3)
トヨタ車体㈱	(3)	矢崎総業㈱	(3)
アイシン・エア・ダブリュ㈱	(2)	アイシン精機㈱	(2)
㈱デンソー	(2)	スズキ㈱	(2)
㈱東海理化	(2)	㈱豊田自動織機	(2)
愛三工業㈱	(1)	愛知製鋼㈱	(1)
㈱アドヴィックス	(1)	㈱アドヴィックス	(1)
オーエスジー㈱	(1)	ジャスコエンジニアリング㈱	(1)
カルソニックカンセイ㈱	(1)	住友電気工業㈱	(1)
㈱キラ・コーポレーション	(1)	任友理工㈱	(1)
小島プレス工業㈱	(1)	ソニーグローバルM&O㈱	(1)
㈱シーエナジー	(1)	ダイキン工業㈱	(1)
ソニーグローバルM&O㈱	(1)	月島機械㈱	(1)
ダイハツ工業㈱	(1)	㈱東海理化	(1)
中部電力㈱	(1)	DOWAサーモエンジニアリング㈱	(1)
㈱テクノ中部	(1)	豊田合成㈱	(1)
東海旅客鉄道㈱	(1)	トヨタ紡織㈱	(1)
㈱トヨタコミュニケーションシステム	(1)	ニチコン㈱	(1)
トヨタ自動車㈱	(1)	㈱ヒップ	(1)
㈱豊田自動織機	(1)	マツダ㈱	(1)
豊田通商㈱	(1)	㈱メコン	(1)
トヨタ紡織㈱	(1)	ヤマハ発動機㈱	(1)
日野自動車㈱	(1)		
㈱VSN	(1)		
マツダ㈱	(1)		
㈱MARUWA	(1)		
未来工業㈱	(1)		
矢崎総業㈱	(1)		
レシップホールディングス㈱	(1)		

3. 一般学生の就職先企業

累積上位

【学部・修士 1995年～】

トヨタ自動車㈱	(82)
アイシン精機㈱	(55)
㈱デンソー	(52)
㈱豊田自動織機	(52)
アイシン・エア・ダブリュ㈱	(45)
矢崎総業㈱	(37)
本田技研工業㈱	(36)
三菱電機㈱	(26)
豊田合成㈱	(23)
㈱ジェイテクト	(21)
トヨタ紡織㈱	(21)
㈱東海理化	(20)
トヨタ車体㈱	(19)
㈱アドヴィックス	(15)
ソニーグローバルM&O㈱	(15)
愛三工業㈱	(13)
ダイハツ工業㈱	(13)
パナソニック㈱	(13)
フタバ産業㈱	(13)
㈱トヨタコミュニケーションシステム	(12)
キヤノン㈱	(11)
ダイキン工業㈱	(11)
日野自動車㈱	(11)
㈱協豊製作所	(10)
小島プレス工業㈱	(10)
スズキ㈱	(10)
住友電気工業㈱	(10)
トヨタテクニカルディベロップメント㈱	(10)
日本精工㈱	(9)

4. 社会人学生の企業復帰先

()は人数

学部	4 名	修士	2 名
ダイキン工業㈱	(1)	矢崎総業㈱	(2)
トヨタ自動車㈱	(1)		
㈱豊田自動織機	(1)		
矢崎総業㈱	(1)		

5. 他大学進学6名

岡山大学大学院	1
東京大学大学院	1
名古屋大学大学院	2
奈良先端科学技術大学院大学	1
北陸先端科学技術大学院大学	1

6. 博士後期課程の修了(学位授与)及び満了状況

修了(学位授与)	2	名
満了	0	名
合計	2	名

7. 学部生の副専攻分野 認定状況

所属分野の内訳	2分野認定		1分野認定	
	7 名		12 名	
	機械システム	3 名	機械システム	7 名
	電子情報	2 名	電子情報	2 名
	物質工学	2 名	物質工学	3 名

平成28(2016)年度 卒業・修了予定者の進路および博士学位授与状況について

平成29年3月21日現在
(2017)

<まとめ> ・本年度も就職決定率[就職者数÷就職希望者数]は100%達成(開学以来100%)
・第一志望就職率・87%

1. 卒業・修了予定者の進路(就職は内定状況)

()は昨年実績人数

	学部		修士課程			博士後期課程		
	社会人	一般	社会人	一般	留学生	社会人	一般	留学生
卒業・修了	8 (12)	79 (86)	1 (2)	37 (28)	0 (3)	0 (1)	1 (1)	4 (1)
満了						0 (1)	1 (0)	
企業復帰	8 (12)		1 (2)			0 (2)	0 (0)	
就職		30 (40)		37 (28)			2 (1)	3 (0)
進学		48 (46)		0 (0)				
その他 (未定・帰国等)		1 (0)			0 (3)			1 (1)
合計	8 (12)	79 (86)	1 (2)	37 (28)	0 (3)	0 (2)	2 (1)	4 (1)
	87 (98)		38 (33)			6 (4)		

※修士:修了者38名のうち1名(一般・就職)は9月に修了済

2. 一般学生の就職先企業 (人数)

企業名	学部 30 人		修士 37 人		累計就職者数上位(学部・修士) ※1995年～	
東海理化	(3)		トヨタ自動車	(4)	トヨタ自動車	76
アイシン精機	(2)		本田デンソー	(3)	アイシン精機	50
トヨタアドヴィックス	(2)		豊田合成	(3)	豊田自動織機	49
ソニーグローバルマニュファクチャリング &オペレーションズ	(2)		アイシン・エイ・ダブリュ	(2)	本田デンソー	47
豊田合成	(2)		住友電気工業	(2)	アイシン・エイ・ダブリュ	43
トヨタ車体	(2)		豊田自動織機	(2)	本田技研工業	36
トヨタ紡織	(2)		アスモ	(1)	矢崎総業	33
矢崎総業	(2)		トヨタアドヴィックス	(1)	三菱電機	26
アイコアルファ	(1)		協豊製作所	(1)	ジェイテクト	21
愛三工業	(1)		島津製作所	(1)	豊田合成	19
アイシン・エーアイ	(1)		新東亜交易	(1)	トヨタ紡織	19
アイシン・エイ・ダブリュ	(1)		ダイキン工業	(1)	東海理化	17
トヨタテックス	(1)		テルモ	(1)	トヨタ車体	16
四国旅客鉄道	(1)		東レ	(1)	トヨタアドヴィックス	13
新和建設	(1)		DOWAサーモエンジニアリング	(1)	ソニーグローバルマニュファクチャリング &オペレーションズ	13
トヨタコミュニケーションシステム	(1)		トヨタコミュニケーションシステム	(1)	トヨタ車体	13
トヨタ自動車	(1)		トヨタ車体	(1)	パナソニック	13
トヨタ自動車九州	(1)		トヨタ紡織	(1)	フタバ産業	13
豊田自動織機	(1)		ニコン	(1)	愛三工業	12
豊田バンモップス	(1)		日本原子力研究開発機構	(1)	ダイハツ工業	12
三菱電機	(1)		任天堂	(1)	キヤノン	11
			任天堂	(1)	トヨタコミュニケーションシステム	11
			橋本電機工業	(1)	協豊製作所	10
			浜松ホトニクス	(1)	ダイキン工業	10
			マキタ	(1)	トヨタテクニカルディベロップメント	10
			三浦工業	(1)	日野自動車	10
			三菱電機	(1)		

3. 社会人学生の復帰企業 (人数)

企業名	学部 8 人		修士 1 人	
NOK	(1)		矢崎総業	(1)
小島プレス工業	(1)			
ダイキン工業	(1)			
トヨタ自動車	(2)			
日本精工	(2)			
矢崎総業	(1)			

5. 学部生の副専攻分野 認定状況

2分野認定		1分野認定	
8 名 (12)		31 名 (35)	
【所属分野の内訳】	機械システム 1名	【所属分野の内訳】	機械システム 13名
	電子情報 3名		電子情報 8名
	物質工学 4名		物質工学 10名

()は昨年実績人数

※対象学生の約半数が認定取得

4. 博士後期課程の修了(学位授与)及び満了状況

修了(学位授与)	満了	計
5 名	1 名	6 名

6. 他大学進学9名

東北大学大学院…2
名古屋大学大学院…5
大阪大学大学院…1

平成27年度 卒業・修了生の進路および博士学位授与状況について

平成28年3月28日現在
学生部 学生グループ

- <まとめ> ・本年度も就職決定率[就職者数÷就職希望者数]は100%達成(開学以来100%)
・第一志望就職率・・・83%

1 卒業・修了生の進路(就職は内定状況) (人) ()は昨年実績人数

	学部(※1)		修士課程			博士後期課程		
	社会人	一般	社会人	一般	留学生(※)	社会人	一般	留学生
卒業・修了	12 (11)	86 (82)	2 (1)	28 (43)	3 (1)	1 (0)	1 (5)	1 (1)
満了						1 (0)		
企業復帰	12 (11)		2 (1)			2 (0)	0 (4)	
就職		40 (40)		28 (42)			1 (1)	0 (1)
進学		46 (41)		0 (1)				
その他(帰国)		0 (1)			3 (1)			1 (0)
計	12 (11)	86 (82)	2 (1)	28 (43)	3 (1)	2 (0)	1 (5)	1 (1)
	98 (93)		33 (45)			4 (6)		

※1(学部)・・・前期末卒業生1名含む

※2(修士)・・・2名:前期末修了(DD留学生)、1名:3月修了(DD留学生) 帰国済

2.一般学生の就職先企業(就職人数)

	学部 40 人	修士 28 人	累計就職者数上位(学部・修士) ※1995年～
企業名	アイシン精機㈱ (6)	トヨタ自動車㈱ (4)	トヨタ自動車㈱ 71
	㈱東海理化 (6)	㈱豊田自動織機 (4)	アイシン精機㈱ 48
	ダイキン工業㈱ (3)	㈱デンソー (2)	㈱豊田自動織機 46
	愛三工業㈱ (1)	アイシン精機㈱ (1)	㈱デンソー 44
	アイシン・エイ・ダブリュ㈱ (1)	㈱アドヴィックス (1)	アイシン・エイ・ダブリュ㈱ 40
	㈱アイビス (1)	㈱OKIソフトウェア (1)	本田技研工業㈱ 36
	㈱アドヴィックス (1)	㈱三和化学研究所 (1)	矢崎総業㈱ 31
	㈱NTTファシリティーズ (1)	㈱ジェイテクト (1)	三菱電機㈱ 24
	オークマ㈱ (1)	住友電気工業㈱ (1)	㈱ジェイテクト 21
	㈱オティックス (1)	ソニーイーエムシーエス㈱ (1)	トヨタ紡織㈱ 16
	㈱協豊製作所 (1)	凸版印刷㈱ (1)	㈱東海理化 14
	小島プレス工業㈱ (1)	豊田合成㈱ (1)	豊田合成㈱ 14
	㈱タダノ (1)	トヨタ自動車東日本㈱ (1)	トヨタ車体㈱ 13
	中外炉工業㈱ (1)	㈱豊田中央研究所 (1)	パナソニック㈱ 13
	デンソーテクノ㈱ (1)	トヨタ紡織㈱ (1)	フタバ産業㈱ 13
	東海旅客鉄道㈱ (1)	日本光電工業㈱ (1)	ダイハツ工業㈱ 12
	トータルテクニカルソリューションズ㈱ (1)	パナソニック㈱ (1)	愛三工業㈱ 11
	トヨタ自動車㈱ (1)	富士ゼロックス㈱ (1)	キヤノン㈱ 11
	トヨタ車体㈱ (1)	㈱フリーダム (1)	ソニーイーエムシーエス㈱ 11
	トヨタ紡織㈱ (1)	丸善石油化学㈱ (1)	㈱アドヴィックス 10
	㈱ヒップ (1)	矢崎総業㈱ (1)	トヨタテクニカルディベロップメント㈱ 10
	日野自動車㈱ (1)		日野自動車㈱ 10
	フジオーゼックス㈱ (1)		㈱協豊製作所 9
	本田技研工業㈱ (1)		ダイキン工業㈱ 9
	㈱MARUWA (1)		㈱トヨタコミュニケーションシステム 9
	三菱電機㈱ (1)		日本精工㈱ 9
	矢崎総業㈱ (1)		小島プレス工業㈱ 9
	公務員(東京消防庁 1類) (1)		スズキ㈱ 8

3.平成27年度 博士後期課程の修了(学位授与)及び満了状況

修了(学位授与)	満了	計
3 名	1 名	4 名

★本学就職評価

『週刊ダイヤモンド』11/7号「グローバル企業就職ランキング」にて全国の大学中第1位にランキング

平成26年度 卒業・修了生の進路および博士学位授与状況について

平成27年3月31現在
学生部 学生グループ

<まとめ> ・本年度も就職決定率[就職者数÷就職希望者数]は100%達成(開学以来100%)
・第一志望就職率・72% ・就職満足度調査・76点(平均)

1.卒業・修了生の進路(就職は内定状況)

(人)

()は昨年実績人数

	学部(※1)		修士課程(※2)			博士後期課程(※3)		
	社会人	一般	社会人	一般	留学生	社会人	一般	留学生
卒業・修了	11 (10)	82 (58)	1 (4)	43 (38)	1 (2)	0 (1)	1 (0)	1 (4)
満了							4	
企業復帰	11 (10)		1 (4)			0 (1)	4	
就職		40 (25)		42 (38)			1 (0)	1 (0)
進学		41 (32)		1 (0)				
その他		1 (1)			1 (2)			(4)
計	11 (10)	82 (58)	1 (4)	43 (38)	1 (2)	0 (1)	5 (0)	1 (4)
	93 (68)		45 (44)			6 (5)		

※1(学部)・・・前期末卒業生1名含む

※2(修士)・・・前期末修了(DD留学生)1名含む(帰国済)

※3(博士)・・・前期末修了者1名含む

2.一般学生の就職先企業(就職人数)

企業名	学部 40 人		修士 42 人		累計就職者数上位(学部・修士) ※1995年～	
アイシン精機㈱	(6)	三菱電機㈱ (4)	トヨタ自動車㈱ (4)	トヨタ自動車㈱ 66		
アイシン・エイ・ダブリュ㈱	(3)	トヨタ自動車㈱ (3)	㈱デンソー (3)	㈱デンソー 42		
㈱東海理化	(3)	㈱豊田自動織機 (3)	㈱豊田自動織機 (3)	㈱豊田自動織機 42		
小島プレス工業㈱	(2)	パナソニック㈱ (3)	アイシン精機㈱ (3)	アイシン精機㈱ 41		
大豊工業㈱	(2)	アイシン精機㈱ (2)	アイシン・エイ・ダブリュ㈱ (2)	アイシン・エイ・ダブリュ㈱ 39		
愛三工業㈱	(1)	㈱アドヴィックス (2)	㈱アドヴィックス (2)	本田技研工業㈱ 35		
㈱アドヴィックス	(1)	矢崎総業㈱ (2)	矢崎総業㈱ (2)	矢崎総業㈱ 29		
㈱荏原製作所	(1)	アイシン・エイ・ダブリュ㈱ (1)	三菱電機㈱ (1)	三菱電機㈱ 23		
㈱オテックス	(1)	㈱オークファン (1)	㈱ジェイテクト (1)	㈱ジェイテクト 20		
キャノン㈱	(1)	キャノンアネルバ㈱ (1)	キャノン㈱ (1)	トヨタ紡織㈱ 14		
コクヨ㈱	(1)	サンディスク㈱ (1)	豊田合成㈱ (1)	豊田合成㈱ 13		
シャープ㈱	(1)	㈱シイテム・シイ (1)	フタバ産業㈱ (1)	フタバ産業㈱ 13		
セイコーエプソン㈱	(1)	㈱ジーエス・ユアサコーポレーション (1)	ダイハツ工業㈱ (1)	ダイハツ工業㈱ 12		
ソニーイーエムシーエス㈱	(1)	㈱システナ (1)	トヨタ車体㈱ (1)	トヨタ車体㈱ 12		
ダイキン工業㈱	(1)	㈱システムアイティ (1)	パナソニック㈱ (1)	パナソニック㈱ 12		
ダイハツ工業㈱	(1)	住友電気工業㈱ (1)	キャノン㈱ (1)	キャノン㈱ 11		
㈱タマディック	(1)	ソニーイーエムシーエス㈱ (1)	愛三工業㈱ (1)	愛三工業㈱ 10		
WDB工学㈱	(1)	TDK㈱ (1)	ソニーイーエムシーエス㈱ (1)	ソニーイーエムシーエス㈱ 10		
㈱デンソー	(1)	㈱デンソー (1)	トヨタテクニカルディベロップメント㈱ (1)	トヨタテクニカルディベロップメント㈱ 10		
㈱東郷製作所	(1)	東レ㈱ (1)	㈱トヨタコミュニケーションシステム (1)	㈱トヨタコミュニケーションシステム 9		
豊田合成㈱	(1)	豊田合成㈱ (1)	日本精工㈱ (1)	日本精工㈱ 9		
トヨタ自動車㈱	(1)	トヨタ自動車東日本㈱ (1)	日野自動車㈱ (1)	日野自動車㈱ 9		
日本システム開発㈱	(1)	㈱ニコン (1)	㈱アドヴィックス (1)	㈱アドヴィックス 8		
日野自動車㈱	(1)	東山フィルム㈱ (1)	㈱協豊製作所 (1)	㈱協豊製作所 8		
フタバ産業㈱	(1)	㈱ヒップ (1)	小島プレス工業㈱ (1)	小島プレス工業㈱ 8		
マールエンジコンポーネンツジャパン㈱	(1)	㈱フジクラ (1)	スズキ㈱ (1)	スズキ㈱ 8		
三菱電機エンジニアリング㈱	(1)	富士重工業㈱ (1)	㈱東海理化 (1)	㈱東海理化 8		
㈱UKCエレクトロニクス	(1)	三菱重工業㈱ (1)	住友電気工業㈱ (1)	住友電気工業㈱ 6		
㈱菱友システムズ	(1)	㈱販売新聞東京本社 (1)	ダイキン工業㈱ (1)	ダイキン工業㈱ 6		
		㈱ワコム (1)				

3.平成26年度 博士後期課程の修了(学位授与)及び満了状況

修了(学位授与)	満了	計
2 名	4 名	6 名

(資料 16) 【企業から派遣された講師が担当する主な授業科目 (令和元年度実績)】

講師氏名	担当授業科目	所属・役職等
教養科目 (学部)		
小方 弘成	科学技術と社会 (教養コア 4) 【選択必修】	パナソニックエコシステムズ株式会社 I A Q ビジネスユニット生産技術部 主幹
田岡 直規		大阪ガス株式会社 監査部 内部統制評価チーム課長
永草伸一朗		坂部環境技術事務所
橋本 英樹		新和実業株式会社 代表取締役
春田 要一		春田技術士事務所 所長
専門科目 (学部)		
相羽 繁生	国際標準化戦略論 【選択】	株式会社東郷製作所 代表取締役社長
高木 真人		横河電機株式会社 イノベーション本部 オープンイノベーション室長
鈴木 浩之	経営管理工学 【選択】	トヨタ自動車株式会社 収益関連事業部
松村 英之	トヨタ生産方式概論 【選択】	トヨタ自動車株式会社 生産管理部 主査
饗庭 龍次		トヨタ自動車株式会社 生産管理部 主幹
宮武 秀宇		トヨタ自動車株式会社 生産管理部 主任
松本慎一郎		トヨタ自動車株式会社 生産管理部 主任

講師氏名	担当授業科目	所属・役職等
専門科目 (学部)		
秋山 進	現代工学概論1【必修】 車両電子システムの最新動向 と展望	株式会社デンソー 技術開発推進部 国際標準化推進室 担当部長
井須 紀文	自然に学ぶものづくり ーカタツムリと住宅材料ー	株式会社 LIXIL Technology Reserch 本部 分析評価室 室長
加藤 芳夫	人類の始まりとデザインの根源 を考える	サントリー食品インターナショナル株式会社 ジャパン事業本部 シニアスペシャリスト
田中 正俊	通信から工業・医療分野に 広がる光ファイバの応用	三菱電線工業株式会社 光部品事業部開発設計グループ 主席部員
豊島 浩二	「トヨタは変わる！プリウスも変わ る！」不可能を可能にしてきた開発	トヨタ自動車株式会社 ZEV ファクトリー チーフエンジニア 兼 部長
中野富治朗	溶接の新生産技術開発と仕事 の進め方	株式会社豊田自動織機 技術人材育成室 キャリアパートナー
山元 達裕	パワステって何だ？これから どうなるの？	株式会社ジェイテクト 第2 ステアリングシステム技術部 部長
今泉 充	現代工学概論2【必修】 日本の宇宙用太陽電池開発	宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 研究開発部門 主幹研究開発員
小川 和之	EMC入門	矢崎総業株式会社 技術研究所 研究企画部
齊藤 ゆみ	コンポーネント機器への制御 技術応用	オムロン株式会社 技術・知財本部 知能システム研究開発センタ・技術専門職
長屋 隆之	QRコードとオープン戦略	株式会社豊田中央研究所 データアナリティクス研究領域 データ駆動エンジニアリングプログラムPM
松浦 洋航	電機メーカーでの研究開発に 必要とされる工学	三菱電機株式会社 先端技術総合研究所 環境システム技術部 放電応用グループ
宮地 岳彦	シミュレーションとものづくり	株式会社 JSOL エンジニアリング本部 営業グループマネジャー

(資料 17) 【最近 5 年間の求人件数の状況 (実績)】

年 度	就職希望者数	求人件数	求人倍率	就職者数	就職決定率
2014	40 名	533 件	13.3 倍	40 名	100%
2015	40 名	542 件	13.6 倍	40 名	100%
2016	30 名	557 件	18.6 倍	30 名	100%
2017	39 名	497 件	12.7 倍	39 名	100%
2018	23 名	510 件	22.2 倍	23 名	100%

(資料 18) 【最近 5 年間の本学工学部学生の進路：人数および比率（卒業生実績）】

年度	卒業生	新規就職 希望者	出身企業 への復帰者	本学修士課程 への進学者	他大学修士課程 への進学者	その他
2014	93 名	40 名 (43.0%)	11 名 (11.8%)	37 名 (39.8%)	4 名 (4.3%)	1 名 (1.1%)
2015	98 名	40 名 (40.8%)	12 名 (12.2%)	34 名 (34.7%)	12 名 (12.2%)	0 名 (0%)
2016	87 名	30 名 (34.5%)	8 名 (9.2%)	39 名 (44.8%)	9 名 (10.3%)	1 名 (1.1%)
2017	89 名	39 名 (43.8%)	4 名 (4.5%)	39 名 (43.8%)	6 名 (6.7%)	1 名 (1.1%)
2018	84 名	23 名 (27.4%)	4 名 (4.8%)	54 名 (64.3%)	3 名 (3.6%)	0 名 (0.0%)
平均	90.2 名	34.4 名 (38.1%)	7.8 名 (8.6%)	40.6 名 (45.0%)	6.8 名 (7.5%)	0.6 名 (0.7%)

52.5%

(資料 19) 【本学卒業（学部および修士）新規就職者の出身高校所在県】

人数は学部・修士の合算値（）は学部学生（内数）

2016年度卒業・修了者			2017年度卒業・修了者			2018年度卒業・修了者		
	名	%		名	%		名	%
愛知	50(13)	74.6	愛知	41(19)	56.2	愛知	25(10)	42.4
岐阜	5(5)	7.5	三重	9(5)	12.3	岐阜	10(1)	16.9
静岡	2(2)	3.0	岐阜	7(4)	9.6	三重	5(3)	8.5
佐賀	2(2)	3.0	静岡	3(3)	4.1	福岡	4(4)	6.8
徳島	2(2)	3.0	広島	2(2)	2.7	大阪	2(0)	3.4
千葉	1(1)	1.5	埼玉	1(1)	1.4	山口	2(1)	3.4
大阪	1(1)	1.5	石川	1(1)	1.4	鹿児島	2(0)	3.4
熊本	1(1)	1.5	滋賀	1(0)	1.4	宮崎	2(1)	3.4
石川	1(1)	1.5	大分	1(0)	1.4	静岡	1(0)	1.7
長崎	1(1)	1.5	福岡	1(1)	1.4	茨城	1(0)	1.7
鳥取	1(1)	1.5	長崎	1(1)	1.4	宮城	1(0)	1.7
			長野	1(1)	1.4	滋賀	1(1)	1.7
			福井	1(0)	1.4	新潟	1(1)	1.7
			奈良	1(0)	1.4	千葉	1(1)	1.7
			大阪	1(1)	1.4	(中国)	1(0)	1.7
			岡山	1(0)	1.4			
合計	67(30)	100.0	合計	73(39)	100.0	合計	59(23)	100.0

(資料 20) 【本学学生（学部および修士）の最近3年における就職先本社所在県】

人数は学部・修士の合算値（ ）は学部学生（内数）

2016年度卒業・修了者			2017年度卒業・修了者			2018年度卒業・修了者		
	名	%		名	%		名	%
愛知	45(23)	67.2	愛知	49(29)	67.1	愛知	37(17)	62.7
東京	9(3)	13.4	東京	7(4)	9.6	東京	14(2)	23.7
静岡	4(2)	6.0	静岡	7(1)	9.6	大阪	3(1)	5.1
大阪	3(0)	4.5	大阪	3(1)	4.1	福岡	3(2)	5.1
京都	2(0)	3.0	岐阜	2(2)	2.7	静岡	1(0)	1.7
茨城	1(0)	1.5	広島	2(1)	2.7	山口	1(1)	1.7
愛媛	1(0)	1.5	神奈川	1(0)	1.4			
香川	1(1)	1.5	京都	1(0)	1.4			
福岡	1(1)	1.5	埼玉	1(1)	1.4			
合計	67(30)	100.0	合計	73(39)	100.0	合計	59(23)	100.0

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	ホタテ カズオ 保立 和夫 <令和元年9月1日>		工学博士		豊田工業大学学長 (令和1.9.1~4.8.31)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。